

【 52-1 】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Medical Research)
研究指導教員	峯 下 昌 道
研究・教育の概略	当科では呼吸器疾患全般を対象として、研究・教育を行なう。中でも呼吸器インターベンションの研究に力を入れており、悪性気道狭窄に対する治療として、硬性気管支鏡と軟性気管支鏡を組み合わせ用い、腫瘍の焼灼、バルーン拡張、気道ステントの留置などを行っており、適応や効果判定に関する臨床研究は今年度も継続していく。気道狭窄の治療前後におけるチョークポイントの移動に関する気道内圧の測定や局所肺の呼気中CO₂、O₂を用いた病態解析に関する研究も継続して行う。難治性気胸に関しては胸腔造影による診断と EWS 挿入および胸膜癒着による治療を行っており症例を集積している。さらにCOPDや気管支喘息の内視鏡的治療を本格的に開始しており、この手技に関する臨床研究を推進する。肺癌の診断、治療に関しては豊富な臨床例に基づいて、画像診断、気管支鏡検査(ナビゲーションや超拡大内視鏡も含む)、化学療法などの研究、教育を行い、臨床治験にも積極的に参加する。気管支鏡検査の際に気管支腔内超音波検査を併用し、超音波データやエラストグラム診断における有用性に関する研究を行っている。気管支腔内超音波検査法は肺癌のみならず、気管支結核や再発性多発軟骨炎などの病態把握のための研究にも活用している。これまで Vibration response imaging を用いた呼吸音に関する研究を行ってきたが、今後は得られた知見を参考にレーダーを用いた呼吸モニターや肺機能検査に関する研究を進めていく。気管支喘息、および呼吸器感染症については豊富な臨床例に基づいて、その病態、診断法、治療法を教育する。
研究項目	1. 気道狭窄に対する呼吸器インターベンション 2. 気道内圧、および呼気中CO₂、O₂を用いた呼吸生理学的検討 3. 難治性気胸の治療 4. COPDの内視鏡的治療 5. 気管支喘息の内視鏡的治療 6. 肺癌の診断と治療 7. 気管支腔内超音波検査法 8. レーダーを用いた呼吸モニターおよび肺機能検査
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器病態学		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病態を理解する			
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患を症例を通して病態を理解し、管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な呼吸器疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な呼吸器疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	閉塞性換気障害の病態		1	
2	拘束性換気障害の病態		2	
3	急性呼吸不全の病態1		3	
4	急性呼吸不全の病態2		4	
5	ARDSの病態1		5	
6	ARDSの病態2		6	
7	慢性呼吸不全の病態1		7	
8	慢性呼吸不全の病態2		8	
9	過換気症候群の病態		9	
10	肺泡低換気の病態		10	
11	肺循環障害の病態1		11	
12	肺循環障害の病態2		12	
13	無気肺の病態		13	
14	中枢気道狭窄の病態1		14	
15	中枢気道狭窄の病態2		15	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 81545	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する			
講義計画	症例に基づいて、気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する			
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	気管支鏡の歴史		1	
2	気管支鏡の適応と禁忌1		2	
3	気管支鏡の適応と禁忌2		3	
4	軟性気管支鏡の機器と準備1		4	
5	周辺機器1		5	
6	局所麻酔1		6	
7	気管支鏡の挿入と観察1		7	
8	気管支の解剖1		8	
9	気管支鏡所見—正常編1		9	
10	気管支鏡所見—異常編1		10	
11	気管支鏡所見—異常編2		11	
12	気管支鏡所見—異常編3		12	
13	胸腔鏡の歴史1		13	
14	fexi-rigid type 胸腔鏡の適応と禁忌1		14	
15	fexi-rigid type 胸腔鏡の機器と準備1		15	

講義担当者承認

㊤

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80484	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する			
講義計画	症例に基づいて気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する			
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	経気管支的肺生検1
2			2	経気管支的肺生検2
3			3	経気管支的肺生検3
4			4	EBUS—中枢気道への応用1
5			5	EBUS—中枢気道への応用2
6			6	EBUS—中枢気道への応用3
7			7	EBUS—中枢気道への応用4
8			8	EBUS—末梢病変への応用1
9			9	EBUS—末梢病変への応用2
10			10	EBUS—末梢病変への応用3
11			11	EBUS—末梢病変への応用4
12			12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技1
13			13	胸腔鏡所見1
14			14	胸腔鏡所見2
15			15	胸腔鏡の合併症と対処法1

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器画像診断学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	西根 広樹	担当教員連絡先	内線 80484	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	呼吸器画像の読影に習熟する			
講義計画	症例を通じて胸部単純エックス線, 胸部CTの読影法を解説する			
達成目標	基本的な呼吸器疾患について胸部単純エックス線, 胸部CTを読影できる 画像所見に基づいて, 鑑別診断を列挙できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	胸部単純エックス線—正常編	1		
2	胸部単純エックス線—浸潤影	2		
3	胸部単純エックス線—結節影	3		
4	胸部単純エックス線—びまん性陰影	4		
5	胸部単純エックス線—無気肺	5		
6	胸部単純エックス線—応用編1	6		
7	胸部単純エックス線—応用編2	7		
8	胸部CT—正常編	8		
9	胸部CT—GGO	9		
10	胸部CT—consolidation	10		
11	胸部CT—結節影	11		
12	胸部CT—びまん性陰影	12		
13	胸部CT—無気肺	13		
14	胸部CT—応用編1	14		
15	胸部CT—応用編2	15		

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器画像診断学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	呼吸器画像の読影に習熟する			
講義計画	症例を通じて胸部単純エックス線, 胸部CTの読影法を解説する			
達成目標	基本的な呼吸器疾患について胸部単純エックス線, 胸部CTを読影できる 画像所見に基づいて, 鑑別診断を列挙できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	肺炎の画像診断1
2			2	肺炎の画像診断2
3			3	COPDの画像診断
4			4	胸膜炎, 膿胸の画像診断
5			5	間質性肺炎の画像診断1
6			6	間質性肺炎の画像診断2
7			7	サルコイドーシスの画像診断
8			8	肺胞蛋白症の画像診断
9			9	肺水腫の画像診断
10			10	肺癌の画像診断1
11			11	肺癌の画像診断2
12			12	縦隔リンパ節の読影
13			13	胸膜中皮腫の画像診断
14			14	PET
15			15	胸部MRI

講義担当者承認

◎印

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅰ		必修/選択	必修	
担当教員	駒瀬 裕子	担当教員連絡先	内線 78124		
単位数	2単位(前期 2)	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して, その病理と臨床像を検討する				
達成目標	基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	気管支喘息の病理1		1		
2	気管支喘息の臨床1		2		
3	再発性多発軟骨炎の病理と臨床1		3		
4	Wegener肉芽腫症の病理と臨床 1		4		
5	特発性間質性肺炎の病理1		5		
6	特発性間質性肺炎の臨床1		6		
7	好酸球性肺炎の病理1		7		
8	好酸球性肺炎の臨床1		8		
9	過敏性肺臓炎の病理1		9		
10	過敏性肺臓炎の臨床1		10		
11	膠原病肺の病理1		11		
12	膠原病肺の臨床1		12		
13	サルコイドーシスの病理1		13		
14	サルコイドーシスの臨床1		14		
15	その他の間質性肺炎の病理と臨床1		15		

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463	
単位数	2単位(後期 2)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する			
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して, その病理と臨床像を検討する			
達成目標	基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	肺腺癌の病理1
2			2	肺腺癌の臨床1
3			3	肺扁平上皮癌の病理1
4			4	肺扁平上皮癌の臨床1
5			5	小細胞肺癌の病理1
6			6	小細胞肺癌の臨床1
7			7	大細胞肺癌の病理1
8			8	大細胞肺癌の臨床1
9			9	細気管支肺胞上皮癌の病理と臨床1
10			10	非小細胞肺癌の化学療法1
11			11	小細胞肺癌の化学療法1
12			12	転移性肺癌の病理1
13			13	転移性肺癌の臨床1
14			14	悪性胸膜中皮腫の病理1
15			15	悪性胸膜中皮腫の臨床1

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器内視鏡実習 I		必修/選択	必修
担当教員	井上 健男	担当教員連絡先	内線 81307	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	気管支鏡の実技を習得する			
講義計画	気管支鏡の手技を実施する。			
達成目標	気管支鏡を用いて内視鏡的観察ができる。 経気管支肺生検ができる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と実習態度, および手技の習熟度, 問題点の理解度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	気管支鏡の挿入および観察手技1	1		
2	気管支鏡の挿入および観察手技2	2		
3	気管支命名法1	3		
4	気管支命名法2	4		
5	気管支鏡所見1	5		
6	気管支鏡所見2	6		
7	気管支鏡所見3	7		
8	気管支鏡所見4	8		
9	経気管支肺生検1	9		
10	経気管支肺生検2	10		
11	経気管支肺生検3	11		
12	ナビゲーション1	12		
13	ナビゲーション2	13		
14	EBUS－GS法1	14		
15	EBUS－GS法2	15		

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器内視鏡実習Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	井上 健男	担当教員連絡先	内線 81307	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	気管支鏡と flexi-rigid type 胸腔鏡の実技を習得する			
講義計画	気管支鏡の手技を実施する。 flexi-rigid type 胸腔鏡の手技を実施する。			
達成目標	気管支鏡を用いて内視鏡的観察ができる。 経気管支肺生検ができる。 flexi-rigid type 胸腔鏡を用いて観察と生検ができる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と実習態度, および手技の習熟度, 問題点の理解度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊥)	後期(回)	内 容 (出席㊥)
1			1	気管支鏡所見5
2			2	気管支鏡所見6
3			3	気管支鏡所見7
4			4	EBUS－TBNA1
5			5	EBUS－TBNA2
6			6	EBUS－TBNA3
7			7	蛍光気管支鏡1
8			8	蛍光気管支鏡2
9			9	NBI1
10			10	NBI2
11			11	flexi-rigid type 胸腔胸の手技1
12			12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技2
13			13	胸腔鏡所見1
14			14	胸腔鏡所見2
15			15	胸腔鏡所見3

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅲ		必修/選択	必修
担当教員	半田 寛	担当教員連絡先	内線 80536	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する			
講義計画	症例に基づいて, 気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する			
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	気管支鏡の歴史2		1	
2	気管支鏡の適応と禁忌3		2	
3	気管支鏡の適応と禁忌4		3	
4	軟性気管支鏡の機器と準備2		4	
5	周辺機器2		5	
6	局所麻酔2		6	
7	気管支鏡の挿入と観察2		7	
8	気管支の解剖2		8	
9	気管支鏡所見—正常編2		9	
10	気管支鏡所見—異常編4		10	
11	気管支鏡所見—異常編5		11	
12	気管支鏡所見—異常編6		12	
13	胸腔鏡の歴史2		13	
14	flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と禁忌2		14	
15	flexi-rigid type 胸腔鏡の機器と準備2		15	

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅳ		必修/選択	必修
担当教員	半田 寛	担当教員連絡先	内線 80536	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する			
講義計画	症例に基づいて、気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する			
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	経気管支的肺生検—ナビゲーション1
2			2	経気管支的肺生検—ナビゲーション2
3			3	経気管支的肺生検—ナビゲーション3
4			4	EBUS—TBNA1
5			5	EBUS—TBNA2
6			6	EBUS—TBNA3
7			7	蛍光気管支鏡1
8			8	蛍光気管支鏡2
9			9	NBI1
10			10	NBI2
11			11	気管支鏡の合併症と対処法2
12			12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技2
13			13	胸腔鏡所見3
14			14	胸腔鏡所見4
15			15	胸腔鏡の合併症と対処法2

講義担当者承認 ⑨

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅲ		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463	
単位数	2単位(前期 2)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する			
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して, その病理と臨床像を検討する			
達成目標	基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	気管支喘息の病理2		1	
2	気管支喘息の臨床2		2	
3	再発性多発軟骨炎の病理と臨床2		3	
4	Wegener肉芽腫症の病理と臨床2		4	
5	特発性間質性肺炎の病理2		5	
6	特発性間質性肺炎の臨床2		6	
7	好酸球性肺炎の病理2		7	
8	好酸球性肺炎の臨床2		8	
9	過敏性肺臓炎の病理2		9	
10	過敏性肺臓炎の臨床2		10	
11	膠原病肺の病理2		11	
12	膠原病肺の臨床2		12	
13	サルコイドーシスの病理2		13	
14	サルコイドーシスの臨床2		14	
15	その他の間質性肺炎の病理と臨床2		15	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅳ		必修/選択	必修
担当教員	古屋 直樹	担当教員連絡先	内線 80988	
単位数	2単位(後期 2)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する			
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して, その病理と臨床像を検討する			
達成目標	基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1			1	肺腺癌の病理2
2			2	肺腺癌の臨床2
3			3	肺扁平上皮癌の病理2
4			4	肺扁平上皮癌の臨床2
5			5	小細胞肺癌の病理2
6			6	小細胞肺癌の臨床2
7			7	大細胞肺癌の病理2
8			8	大細胞肺癌の臨床2
9			9	細気管支肺胞上皮癌の病理と臨床2
10			10	非小細胞肺癌の化学療法2
11			11	小細胞肺癌の化学療法2
12			12	転移性肺癌の病理2
13			13	転移性肺癌の臨床2
14			14	悪性胸膜中皮腫の病理2
15			15	悪性胸膜中皮腫の臨床

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器疾患特論 I		必修/選択	必修
担当教員	西根 広樹	担当教員連絡先	内線 80484	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	個々の呼吸器疾患についてその臨床的特徴と問題点を理解する			
講義計画	臨床例を通して個々の呼吸器疾患の臨床的特徴と問題点を検討する			
達成目標	1. 個々の呼吸器疾患の臨床的特徴を説明できる 2, 個々の呼吸器疾患の問題点を列挙し, 対応方法を説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)		後期(回)	内 容 (出席㊥)
1	気管支拡張症		1	
2	嚢胞性肺疾患		2	
3	慢性閉塞性肺疾患1		3	
4	慢性閉塞性肺疾患2		4	
5	過換気症候群		5	
6	気管支喘息1		6	
7	気管支喘息2		7	
8	PIE症候群		8	
9	アレルギー性気管支肺アスペルギルス		9	
10	過敏性肺臓炎		10	
11	肺ヒスチオサイトーシスX		11	
12	膠原病に伴う肺疾患		12	
13	サルコイドーシス		13	
14	特発性間質性肺炎1		14	
15	特発性間質性肺炎2		15	

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器疾患特論Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	西根 広樹	担当教員連絡先	内線 80484	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	個々の呼吸器疾患についてその臨床的特徴と問題点を理解する			
講義計画	臨床例を通して個々の呼吸器疾患の臨床的特徴と問題点を検討する			
達成目標	1. 個々の呼吸器疾患の臨床的特徴を説明できる 2, 個々の呼吸器疾患の問題点を列挙し, 対応方法を説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	薬剤性間質性肺炎
2			2	無気肺
3			3	ARDS
4			4	肺胞蛋白症
5			5	肺胞微石症
6			6	原発性肺癌—主要症候
7			7	原発性肺癌—診断
8			8	原発性肺癌—治療
9			9	転移性肺腫瘍
10			10	肺血栓, 塞栓症
11			11	自然気胸
12			12	胸膜炎, 膿胸
13			13	胸膜腫瘍
14			14	縦隔炎
15			15	縦隔腫瘍

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	呼吸器インターベンション実習 I			必修/選択	必修
担当教員	半田 寛		担当教員連絡先	内線 80536	
単位数	1単位(前期 1)		履修年次	2年	
テーマと目的	呼吸器インターベンションに関する基礎的手技を習得する				
講義計画	呼吸器インターベンション症例の基礎的手技を実施する				
達成目標	呼吸器インターベンション前後の問題点について説明し、対処できる 適切な手技選択し、実施できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間				
成績評価法	出席と実習態度、および手技の習熟度、問題点の理解度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席㊥)		後期(回)	内 容 (出席㊥)	
1	呼吸器インターベンション適応と禁忌1		1		
2	呼吸器インターベンション適応と禁忌2		2		
3	硬性気管支鏡1		3		
4	硬性気管支鏡2		4		
5	気道狭窄の診断1		5		
6	気道狭窄の診断2		6		
7	気道ステントの種類と適応1		7		
8	気道ステントの種類と適応2		8		
9	気道ステント挿入の実際1		9		
10	気道ステント挿入の実際2		10		
11	気道異物1		11		
12	気道異物2		12		
13	APC焼灼1		13		
14	APC焼灼2		14		
15	バルーン拡張		15		

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器インターベンション実習Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463	
単位数	1単位(後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	呼吸器インターベンションに関する基礎的手技を習得する			
講義計画	呼吸器インターベンション症例の基礎的手技を実施する			
達成目標	呼吸器インターベンション前後の問題点について説明し, 対処できる 適切な手技選択し, 実施できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と実習態度, および手技の習熟度, 問題点の理解度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1			1	Nd-YAGレーザー
2			2	クライオセラピー
3			3	気道内圧測定1
4			4	気道内圧測定2
5			5	気道狭窄とチョークポイント1
6			6	気道狭窄とチョークポイント2
7			7	良性気道狭窄とインターベンション
8			8	悪性気道狭窄とインターベンション
9			9	食道気管瘻の治療法1
10			10	食道気管瘻の治療法2
11			11	呼吸器インターベンションの合併症1
12			12	呼吸器インターベンションの合併症2
13			13	COPDの内視鏡的治療1
14			14	COPDの内視鏡的治療2
15			15	気管支喘息の内視鏡的治療

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	呼吸器腫瘍学		必修/選択	選択	
担当教員	半田 寛	担当教員連絡先	内線 80484		
単位数	2単位(前期1, 後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	呼吸器の腫瘍性疾患の臨床を理解する				
講義計画	原発性肺癌, 転移性肺癌, 悪性胸膜中皮腫の診断と治療を解説する				
達成目標	原発性肺癌, 転移性肺癌, 悪性胸膜中皮腫の診断と治療について説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	非小細胞肺癌の診断1		1	転移性肺癌の診断1	
2	非小細胞肺癌の診断2		2	転移性肺癌の診断2	
3	非小細胞肺癌の診断3		3	転移性肺癌の診断3	
4	非小細胞肺癌の治療1		4	転移性肺癌の治療1	
5	非小細胞肺癌の治療2		5	転移性肺癌の治療2	
6	非小細胞肺癌の治療3		6	転移性肺癌の治療3	
7	非小細胞肺癌の治療4		7	転移性肺癌の治療4	
8	小細胞肺癌の診断1		8	悪性胸膜中皮腫の診断1	
9	小細胞肺癌の診断2		9	悪性胸膜中皮腫の診断2	
10	小細胞肺癌の診断3		10	悪性胸膜中皮腫の診断3	
11	小細胞肺癌の治療1		11	悪性胸膜中皮腫の治療1	
12	小細胞肺癌の治療2		12	悪性胸膜中皮腫の治療2	
13	小細胞肺癌の治療3		13	悪性胸膜中皮腫の治療3	
14	小細胞肺癌の治療4		14	悪性胸膜中皮腫の治療4	
15	化学療法の有害事象と対処法1		15	化学療法の有害事象と対処法2	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(19)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	呼吸器感染症学		必修/選択	選択	
担当教員	井上健男	担当教員連絡先	内線 81307		
単位数	2単位(前期1, 後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器領域における感染症を理解する				
講義計画	呼吸器領域における感染症を解説する				
達成目標	呼吸器領域における感染症の診断, 治療, 感染拡大予防対策について説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	細菌感染症の診断1		1	肺結核の治療1	
2	細菌感染症の診断2		2	肺結核の治療2	
3	細菌感染症の診断3		3	肺結核の治療3	
4	細菌感染症の治療1		4	マイコプラズマ感染症の診断1	
5	細菌感染症の治療2		5	マイコプラズマ感染症の診断2	
6	細菌感染症の治療3		6	マイコプラズマ感染症の治療1	
7	ウイルス感染症の診断1		7	マイコプラズマ感染症の治療2	
8	ウイルス感染症の診断2		8	クラミジア, リケッチア感染症の診断1	
9	ウイルス感染症の診断3		9	クラミジア, リケッチア感染症の診断2	
10	ウイルス感染症の治療1		10	クラミジア, リケッチア感染症の治療1	
11	ウイルス感染症の治療2		11	クラミジア, リケッチア感染症の治療2	
12	ウイルス感染症の治療3		12	非定型肺炎の診断1	
13	肺結核の診断1		13	非定型肺炎の診断2	
14	肺結核の診断2		14	非定型肺炎の治療1	
15	肺結核の診断3		15	非定型肺炎の治療2	

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(20)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	呼吸音解析		必修/選択	選択	
担当教員	峯下昌道	担当教員連絡先	内線 80463		
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸音解析に関する理解を深める				
講義計画	呼吸音解析とその臨床応用について解説する				
達成目標	Vibration Response Imagingを用いた呼吸音解析の原理, 臨床応用を理解し, 呼吸音解析の呼吸生理的評価について述べることができる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	呼吸音解析について		1		
2	Vibration Response Imaging (VRI)の原理		2		
3	VRI測定の実際		3		
4	健常人のVRI所見1		4		
5	健常人のVRI所見2		5		
6	気道インターベンションとVRI1		6		
7	気道インターベンションとVRI2		7		
8	気道インターベンションとVRI3		8		
9	COPDのVRI所見1		9		
10	COPDのVRI所見2		10		
11	COPD治療とVRI所見		11		
12	気管支喘息のVRI所見		12		
13	呼吸音解析と呼吸生理1		13		
14	呼吸音解析と呼吸生理2		14		
15	携帯型呼吸音解析装置の開発		15		

講義担当者承認

㊞

【52-2】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Medical Research)
研究指導教員	明 石 嘉 浩
研究・教育の概略	循環器疾患は緊急の状況が多く、指導医や研修医なども加わり、チーム医療が必要とされる。そのため責任をもって一員として加わり、上級医の指示、指導のもとに適切な医療をすすめていくことが大切である。そのために必要な知識や技術を系統的に理解し、実践できるようにすることが目的となる。 午前中は循環器疾患における病態、症候、診断法、治療法などを、臨床の現場で経験した症例より学び、午後では各疾患における循環器特有の診断法、画像診断、カテーテル検査などを学ぶようにした。また循環器疾患は全身疾患の一環として発症することも少なくないので、全身疾患を系統的に見ることが可能なようにカリキュラムを設定した。 また医学特論では循環器の臨床的なエキスパートを学外から呼び、アップデートな実践的な話をしてもらう予定である。 それらの習得した知識により収集した情報から問題点を抽出し、個々の情報に意味づけをして優先順位を考慮した診断、治療計画がたてられるようになれるよう教育していく。
研究項目	1. 冠動脈画像及び機能診断 (IVUS、OCT、FFR) の研究 2. 心房細動への三次元マッピングシステムによる新しい治療法の研究 3. 心臓超音波における心機能解析に関する研究 4. 慢性心不全患者の運動療法に関する研究 5. 循環器疾患と睡眠時無呼吸症候群の研究 6. 肺高血圧症の診断方法に関する研究
準備学習(予習・復習)	カンファレンス前後では、経験する疾患の治療ガイドラインを確認する。虚血性心疾患に関しては、心電図、エコー、核医学、CT、MRI 等の非侵襲的検査の組み合わせ方と、心臓カテーテル検査に至るまでの選択方法を学ぶ。不整脈疾患に関しては、心電図の読み方、そこから予想される不整脈起源、診断と治療法に関して学ぶ。心不全に関しては急性期と慢性期の違いの理解、急性心不全における血行動態の評価と管理方法を学び、慢性期には内服薬の使い方と心移植への橋渡しに関して学ぶ。

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器病態学(Ⅰ)		必修/選択	必修
担当教員	宮崎秀和	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の病態を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して病態を理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	心疾患へのアプローチの仕方①	1	循環器疾患 心電図の役割について①	
2	心疾患へのアプローチの仕方②	2	循環器疾患 心電図の役割について②	
3	心疾患へのアプローチの仕方③	3	心電図の装着法について ①	
4	循環器疾患の症候①	4	心電図の装着法について ②	
5	循環器疾患の症候②	5	モニター心電図でわかること ①	
6	循環器疾患の身体所見 視診	6	モニター心電図でわかること ②	
7	循環器疾患の身体所見 触診	7	徐脈性不整脈とは ①	
8	循環器疾患の身体所見 聴診①	8	徐脈性不整脈とは ②	
9	循環器疾患の身体所見 聴診②	9	頻脈性不整脈とは ①	
10	循環器疾患の身体所見 聴診③	10	頻脈性不整脈とは ②	
11	循環器疾患の身体所見 打診	11	虚血性心疾患の心電図 ①	
12	循環器疾患の身体所見 まとめ	12	虚血性心疾患の心電図 ②	
13	循環器疾患の問診の取り方①	13	弁膜症の心電図	
14	循環器疾患の問診の取り方②	14	心筋症の心電図	
15	循環器疾患の OSCE による評価	15	大動脈疾患の診断について	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器病態学(Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	明石嘉浩	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の病態を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して病態を理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	心疾患へのアプローチの仕方①	1	循環器疾患 心電図の役割について①	
2	心疾患へのアプローチの仕方②	2	循環器疾患 心電図の役割について②	
3	心疾患へのアプローチの仕方③	3	心電図の装着法について ①	
4	循環器疾患の症候①	4	心電図の装着法について ②	
5	循環器疾患の症候②	5	モニター心電図でわかること ①	
6	循環器疾患の身体所見 視診	6	モニター心電図でわかること ②	
7	循環器疾患の身体所見 触診	7	徐脈性不整脈とは ①	
8	循環器疾患の身体所見 聴診①	8	徐脈性不整脈とは ②	
9	循環器疾患の身体所見 聴診②	9	頻脈性不整脈とは ①	
10	循環器疾患の身体所見 聴診③	10	頻脈性不整脈とは ②	
11	循環器疾患の身体所見 打診	11	虚血性心疾患の心電図 ①	
12	循環器疾患の身体所見 まとめ	12	虚血性心疾患の心電図 ②	
13	循環器疾患の問診の取り方①	13	弁膜症の心電図	
14	循環器疾患の問診の取り方②	14	心筋症の心電図	
15	循環器疾患の OSCE による評価	15	大動脈疾患の診断について	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器症候学(Ⅰ)		必修/選択	必修
担当教員	明石嘉浩	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の症状を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して症状を理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について症候を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の症候に基づいた診断、治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	虚血性心疾患の症候のとりえ方①	1	循環器疾患と浮腫 ①	
2	虚血性心疾患の症候のとりえ方②	2	循環器疾患と浮腫 ②	
3	不整脈の症候のとりえ方①	3	循環器疾患と動悸 ①	
4	不整脈の症候のとりえ方②	4	循環器疾患と動悸 ②	
5	弁膜症の症候のとりえ方①	5	循環器疾患と呼吸困難 ①	
6	弁膜症の症候のとりえ方②	6	循環器疾患と呼吸困難 ②	
7	心筋症の症候のとりえ方①	7	循環器疾患と胸痛 ①	
8	心筋症の症候のとりえ方②	8	循環器疾患と胸痛 ②	
9	大動脈疾患の症候のとりえ方①	9	循環器疾患とチアノーゼ	
10	大動脈疾患の症候のとりえ方②	10	循環器疾患と血圧異常 ①	
11	肺循環障害の症候のとりえ方	11	循環器疾患と血圧異常 ②	
12	左心不全の症候のとりえ方①	12	循環器疾患と脈拍異常 ①	
13	左心不全の症候のとりえ方②	13	循環器疾患と脈拍異常 ②	
14	右心不全の症候のとりえ方①	14	循環器疾患と失神 ①	
15	左心不全の症候のとりえ方②	15	循環器疾患と失神 ②	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器症候学(Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	原田智雄	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の症状を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して症状を理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について症候を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の症候に基づいた診断、治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	虚血性心疾患の症候のとりえ方①	1	循環器疾患と浮腫 ①	
2	虚血性心疾患の症候のとりえ方②	2	循環器疾患と浮腫 ②	
3	不整脈の症候のとりえ方①	3	循環器疾患と動悸 ①	
4	不整脈の症候のとりえ方②	4	循環器疾患と動悸 ②	
5	弁膜症の症候のとりえ方①	5	循環器疾患と呼吸困難 ①	
6	弁膜症の症候のとりえ方②	6	循環器疾患と呼吸困難 ②	
7	心筋症の症候のとりえ方①	7	循環器疾患と胸痛 ①	
8	心筋症の症候のとりえ方②	8	循環器疾患と胸痛 ②	
9	大動脈疾患の症候のとりえ方①	9	循環器疾患とチアノーゼ	
10	大動脈疾患の症候のとりえ方②	10	循環器疾患と血圧異常 ①	
11	肺循環障害の症候のとりえ方	11	循環器疾患と血圧異常 ②	
12	左心不全の症候のとりえ方①	12	循環器疾患と脈拍異常 ①	
13	左心不全の症候のとりえ方②	13	循環器疾患と脈拍異常 ②	
14	右心不全の症候のとりえ方①	14	循環器疾患と失神 ①	
15	左心不全の症候のとりえ方②	15	循環器疾患と失神 ②	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器診断学(Ⅰ)		必修/選択	必修
担当教員	明石嘉浩	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の診断戦略を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して診断方法について理解し、管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について診断方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた診断戦略を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	循環器疾患と心電図 ①	1	Brugada 症候群の診断について	
2	循環器疾患と心電図 ②	2	WPW 症候群の診断について	
3	循環器疾患と心電図 ③	3	脚ブロックの診断について	
4	循環器疾患の胸部単純写真 ①	4	虚血性心疾患の診断法について	
5	循環器疾患の胸部単純写真 ②	5	弁膜症の診断方法について	
6	徐脈性不整脈の診断方法 ①	6	心臓超音波検査でどこまでわかるか	
7	徐脈性不整脈の診断方法 ②	7	心臓超音波検査でわからないこと	
8	頻脈性不整脈の診断方法 ①	8	M モード法でわかること	
9	頻脈性不整脈の診断方法 ②	9	B モード法でわかること	
10	心電図 P 波からなにがわかるか	10	ドップラー法でわかること	
11	心電図 QRS 波からなにがわかるか	11	経食道エコーでわかること	
12	心電図 T 波からなにがわかるか	12	心疾患と CT 検査	
13	心電図 ST 部分からなにがわかるか	13	大動脈疾患の診断方法	
14	心電図 U 波からなにがわかるか	14	肺循環障害の診断方法	
15	心電図 QT からなにがわかるか	15	心疾患と MRI 検査	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器診断学(Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	原田智雄	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の診断戦略を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して診断方法について理解し、管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について診断方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた診断戦略を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	循環器疾患と心電図 ①	1	Brugada 症候群の診断について	
2	循環器疾患と心電図 ②	2	WPW 症候群の診断について	
3	循環器疾患と心電図 ③	3	脚ブロックの診断について	
4	循環器疾患の胸部単純写真 ①	4	虚血性心疾患の診断法について	
5	循環器疾患の胸部単純写真 ②	5	弁膜症の診断方法について	
6	徐脈性不整脈の診断方法 ①	6	心臓超音波検査でどこまでわかるか	
7	徐脈性不整脈の診断方法 ②	7	心臓超音波検査でわからないこと	
8	頻脈性不整脈の診断方法 ①	8	M モード法でわかること	
9	頻脈性不整脈の診断方法 ②	9	B モード法でわかること	
10	心電図 P 波からなにがわかるか	10	ドップラー法でわかること	
11	心電図 QRS 波からなにがわかるか	11	経食道エコーでわかること	
12	心電図 T 波からなにがわかるか	12	心疾患と CT 検査	
13	心電図 ST 部分からなにがわかるか	13	大動脈疾患の診断方法	
14	心電図 U 波からなにがわかるか	14	肺循環障害の診断方法	
15	心電図 QT からなにがわかるか	15	心疾患と MRI 検査	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器治療学(Ⅰ)		必修/選択	必修
担当教員	木田圭亮	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の治療内容を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して治療方法について理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	循環器疾患の治療法の基本について	1	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ①	
2	虚血性心疾患の治療の基本	2	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ②	
3	虚血性心疾患の薬物療法 ①	3	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ③	
4	虚血性心疾患の薬物療法 ②	4	徐脈性不整脈の薬物療法 ①	
5	虚血性心疾患の薬物療法 ③	5	徐脈性不整脈の薬物療法 ②	
6	虚血性心疾患のカテーテル治療 ①	6	徐脈性不整脈のカテーテル治療 ①	
7	虚血性心疾患のカテーテル治療 ②	7	徐脈性不整脈のカテーテル治療 ②	
8	虚血性心疾患のカテーテル治療 ③	8	除細動について ①	
9	虚血性心疾患の非薬物療法 ①	9	除細動について ②	
10	虚血性心疾患の非薬物療法 ②	10	ショック治療の基本的考えかた ①	
11	虚血性心疾患の非薬物療法 ③	11	ショックの治療の基本的考えかた ②	
12	不整脈疾患の治療の基本	12	致死的不整脈の薬物治療 ①	
13	頻脈性不整脈の薬物療法 ①	13	致死的不整脈の薬物治療 ②	
14	頻脈性不整脈の薬物療法 ②	14	致死的不整脈の非薬物療法 ①	
15	頻脈性不整脈の薬物療法 ③	15	致死的不整脈の非薬物療法 ②	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器治療学(Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	石橋祐記	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の治療内容を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して治療方法について理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	心不全の治療の基本的考えかた ①	1	弁膜症の最近の動向 ①	
2	心不全の治療の基本的考えかた ②	2	弁膜症の最近の動向 ②	
3	心不全の薬物治療 ①	3	弁膜症と薬物治療 ①	
4	心不全の薬物治療 ②	4	弁膜症と薬物治療 ②	
5	心不全の薬物治療 ③	5	大動脈弁狭窄症の治療戦略 ①	
6	心不全の非薬物療法について ①	6	大動脈弁狭窄症の治療戦略 ②	
7	心不全の非薬物療法について ②	7	大動脈弁閉鎖不全の治療戦略 ①	
8	急性心不全と慢性心不全の違い ①	8	大動脈弁閉鎖不全の治療戦略 ②	
9	急性心不全と慢性心不全の違い ②	9	僧帽弁狭窄症の治療戦略 ①	
10	急性心不全の治療計画法 ①	10	僧帽弁狭窄症の治療戦略 ②	
11	急性心不全の治療計画法 ②	11	僧帽弁閉鎖不全の治療戦略 ①	
12	慢性心不全の治療計画法 ①	12	僧帽弁閉鎖不全の治療戦略 ②	
13	慢性心不全の治療計画法 ②	13	感染性心内膜炎の治療戦略 ①	
14	心不全と心臓リハビリテーション ①	14	感染性心内膜炎の治療戦略 ②	
15	心不全と心臓リハビリテーション ②	15	収縮性心膜炎の治療戦略	

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器治療学(Ⅲ)		必修/選択	必修
担当教員	田邊康宏	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の治療内容を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して治療方法について理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	循環器疾患の治療法の基本について	1	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ①	
2	虚血性心疾患の治療の基本	2	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ②	
3	虚血性心疾患の薬物療法 ①	3	頻脈性不整脈のカテーテル治療 ③	
4	虚血性心疾患の薬物療法 ②	4	徐脈性不整脈の薬物療法 ①	
5	虚血性心疾患の薬物療法 ③	5	徐脈性不整脈の薬物療法 ②	
6	虚血性心疾患のカテーテル治療 ①	6	徐脈性不整脈のカテーテル治療 ①	
7	虚血性心疾患のカテーテル治療 ②	7	徐脈性不整脈のカテーテル治療 ②	
8	虚血性心疾患のカテーテル治療 ③	8	除細動について ①	
9	虚血性心疾患の非薬物療法 ①	9	除細動について ②	
10	虚血性心疾患の非薬物療法 ②	10	ショック治療の基本的考えかた ①	
11	虚血性心疾患の非薬物療法 ③	11	ショックの治療の基本的考えかた ②	
12	不整脈疾患の治療の基本	12	致死的不整脈の薬物治療 ①	
13	頻脈性不整脈の薬物療法 ①	13	致死的不整脈の薬物治療 ②	
14	頻脈性不整脈の薬物療法 ②	14	致死的不整脈の非薬物療法 ①	
15	頻脈性不整脈の薬物療法 ③	15	致死的不整脈の非薬物療法 ②	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器治療学(Ⅳ)		必修/選択	必修
担当教員	米山喜平	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の治療内容を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して治療方法について理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	心不全の治療の基本的考えかた ①		1	弁膜症の最近の動向 ①
2	心不全の治療の基本的考えかた ②		2	弁膜症の最近の動向 ②
3	心不全の薬物治療 ①		3	弁膜症と薬物治療 ①
4	心不全の薬物治療 ②		4	弁膜症と薬物治療 ②
5	心不全の薬物治療 ③		5	大動脈弁狭窄症の治療戦略 ①
6	心不全の非薬物療法について ①		6	大動脈弁狭窄症の治療戦略 ②
7	心不全の非薬物療法について ②		7	大動脈弁閉鎖不全の治療戦略 ①
8	急性心不全と慢性心不全の違い ①		8	大動脈弁閉鎖不全の治療戦略 ②
9	急性心不全と慢性心不全の違い ②		9	僧帽弁狭窄症の治療戦略 ①
10	急性心不全の治療計画法 ①		10	僧帽弁狭窄症の治療戦略 ②
11	急性心不全の治療計画法 ②		11	僧帽弁閉鎖不全の治療戦略 ①
12	慢性心不全の治療計画法 ①		12	僧帽弁閉鎖不全の治療戦略 ②
13	慢性心不全の治療計画法 ②		13	感染性心内膜炎の治療戦略 ①
14	心不全と心臓リハビリテーション ①		14	感染性心内膜炎の治療戦略 ②
15	心不全と心臓リハビリテーション ②		15	収縮性心膜炎の治療戦略

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器疾患特論実習		必修/選択	必修
担当教員	長田尚彦	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	1 単位(前期・後期)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて、循環器の専門的な知識を深める			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して、循環器に特有の検査、診断、治療についての知識を習得すること			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患に対して行われる診断技術を理解できる 2. 基本的な循環器疾患に対して行われる治療技術を理解できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	心臓カテーテル検査の実際について	1	カテーテル治療について	
2	心臓カテーテル検査の合併症について	2	バルーンのみの拡張について(POBA)	
3	スパズム誘発検査	3	ステント治療について	
4	冠動脈内エコー検査について	4	DES 治療について	
5	核医学検査について ①	5	カテーテル治療と抗血小板治療	
6	核医学検査について ②	6	EPS 検査について	
7	運動負荷心電図について ①	7	EPS 検査でわかること	
8	運動負荷心電図について ②	8	徐脈性不整脈と EPS	
9	ホルター心電図検査について ①	9	頻脈性不整脈と EPS	
10	ホルター心電図検査について ②	10	頻脈性不整脈とアブレーション ①	
11	LP 検査とは	11	頻脈性不整脈とアブレーション ②	
12	睡眠時無呼吸症候群とは	12	冠動脈 CT 検査について	
13	睡眠時無呼吸症候群と心疾患	13	心臓 MRI 検査について	
14	睡眠時無呼吸症候群検査方法について	14	閉塞性動脈硬化症について	
15	睡眠時無呼吸症候群治療法について	15	閉塞性動脈硬化症の治療法について	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器疾患と薬物治療各論		必修/選択	選択
担当教員	原 正壽	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患における薬物治療の実際を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して、薬物治療の実際を説明していく			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について薬物治療の意義を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた薬物治療を実際処方できるようになる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	高血圧治療の実際について ①	1	急性心不全とhANP 治療	
2	高血圧治療の実際について ②	2	急性心不全とカテコラミン	
3	高血圧治療の実際について	3	急性心不全と血管拡張薬	
4	高血圧治療における ACE 阻害薬	4	急性心不全のその他の薬剤治療	
5	高血圧治療における ARB	5	慢性心不全の ACE 阻害薬	
6	高血圧治療における利尿薬	6	慢性心不全の ARB	
7	高血圧治療における Ca 拮抗薬	7	慢性心不全の β 遮断薬	
8	高血圧治療における β 遮断薬	8	慢性心不全と強心薬	
9	高血圧治療におけるその他薬剤	9	慢性心不全のその他の薬剤	
10	狭心症治療における ACE 阻害薬	10	抗不整脈薬の使い方について	
11	狭心症治療における β 遮断薬	11	上室性不整脈とⅠ群抗不整脈薬	
12	狭心症治療における Ca 拮抗薬	12	上室性不整脈とⅢ群抗不整脈薬	
13	狭心症治療における抗血小板薬	13	心室性不整脈とⅠ群抗不整脈薬	
14	慢性心不全と急性心不全の薬物の差異	14	心室性不整脈とⅢ群抗不整脈薬	
15	急性心不全と利尿薬	15	不整脈治療とジギタリスについて	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器疾患と画像診断各論		必修/選択	選択
担当教員	長田尚彦	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患における画像診断の実際を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して、画像診断の実際を説明していく			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について画像診断の意義を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた画像診断が適切に予約できるようになる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	冠動脈造影の基本的読影について ①	1	冠動脈カテーテル治療の実際	
2	冠動脈造影の基本的読影について ②	2	冠動脈カテーテル治療の種類について	
3	左室造影について	3	冠動脈カテーテル治療と内科治療	
4	心内圧曲線の読み方 ①	4	冠動脈カテーテル治療の未来について	
5	心内圧曲線の読み方 ②	5	冠動脈 CT の臨床的意義について	
6	胸部単純写真の読み方 ①	6	冠動脈疾患と MRI 検査について	
7	胸部単純写真の読み方 ②	7	心臓内腫瘍と超音波検査	
8	肺塞栓症の胸部 CT 検査の読み方	8	心内血栓と超音波検査	
9	大動脈疾患の胸部 CT 検査の読み方	9	先天性心疾患と超音波検査	
10	大動脈疾患の MRI 検査の役割について	10	成人の先天性心疾患 ①	
11	大動脈疾患の経食道超音波検査	11	成人の先天性心疾患 ②	
12	閉塞性動脈硬化症の血管造影検査 ①	12	頸動脈エコーの臨床的意義 ①	
13	閉塞性動脈硬化症の血管造影検査 ②	13	頸動脈エコーの臨床的意義 ②	
14	閉塞性動脈硬化症の血管超音波検査	14	腎血管性高血圧の画像診断	
15	閉塞性動脈硬化症の血管内治療	15	腎血管性高血圧のカテーテル治療	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	循環器疾患と全身性疾患特論		必修/選択	選択
担当教員	原 正壽	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患における画像診断の実際を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して、全身性心疾患を評価できるようになる			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患を合併する全身性疾患を説明できる 2. 基本的な循環器疾患に合併する全身性疾患を鑑別でき、診断計画が可能になる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	動脈硬化とは	1	アルコールと心臓について	
2	動脈硬化と冠動脈	2	喫煙と心臓について	
3	動脈硬化と全身疾患	3	サルコイドーシスと心疾患 ①	
4	動脈硬化を予防するためには ①	4	サルコイドーシスと心疾患 ②	
5	動脈硬化を予防するためには ②	5	アミロイドーシスと心疾患 ①	
6	糖尿病と心疾患 ①	6	アミロイドーシスと心疾患 ②	
7	糖尿病と心疾患 ②	7	甲状腺機能異常と心疾患 ①	
8	膠原病と心疾患 ①	8	甲状腺機能異常と心疾患 ②	
9	膠原病と心疾患 ②	9	筋ジストロフィー症と心疾患	
10	遺伝子異常と心疾患 ①	10	抗ガン剤治療と心疾患	
11	遺伝子異常と心疾患 ②	11	ストレスと心疾患	
12	心疾患に対する遺伝子治療 ①	12	たこつぼ型心筋症とは ①	
13	心疾患に対する遺伝子治療 ②	13	たこつぼ型心筋症とは ②	
14	2次性心筋症とは ①	14	内分泌疾患と高血圧	
15	2次性心筋症とは ②	15	電解質異常と心疾患	

講義担当者承認 ⑩

【52-3】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Medical Research)
研究指導教員	伊 東 文 生
研究・教育の概略	研究マインドを持った臨床消化器内科医の育成がゴールである。 疾患をベースに病態理解を深めることからスタートし、この点については消化器疾患、肝臓疾患、胆膵疾患に共通した教育を行う。 また、同時に近年その進歩が急である、分子消化器病分野での理解を深め、最新の分子標的治療への対応できる内容とする。 各疾患ごとの講義、カンファレンスを中心に、研究内容を理解するための抄読会、研究のカンファレンスへ出席していただき、消化器疾患病態との関連を学ぶ。
研究項目	1. 消化器・肝臓病総論 2. 肝臓病態学 3. 消化管病態学 4. 消化器・肝臓病分子病態学 5. 消化器内視鏡学実習
準備学習(予習・復習)	予め、下記の教科書の関連領域を読んでおくこと。 Molecular Biology of The Cell (Garland Science) Bockus Gastroenterology (Saunders)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病総論 I		必修/選択	必修
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	1. 消化管疾患の検査の進め方 ①	1	〃 ②	
2	〃 ②	2	〃 ③	
3	〃 ③	3	〃 ④	
4	〃 ④	4	5. 消化管の症候 ①	
5	〃 ⑤	5	〃 ②	
6	2. 消化管運動 ①	6	〃 ③	
7	〃 ②	7	〃 ④	
8	〃 ③	8	6. 肝機能検査の解釈 ①	
9	〃 ④	9	〃 ②	
10	3. 消化・吸収 ①	10	〃 ③	
11	〃 ②	11	〃 ④	
12	〃 ③	12	〃 ⑤	
13	〃 ④	13	〃 ⑥	
14	〃 ⑤	14	〃 ⑦	
15	4. 消化管ホルモン ①	15	〃 ⑧	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	中原一有	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。				
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。				
達成目標	1.消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2.消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	7. 肝・胆の画像診断 ①		1	〃 ④	
2	〃 ②		2	〃 ⑤	
3	〃 ③		3	10. 各種病態 a. 黄疸①	
4	〃 ④		4	〃 ②	
5	〃 ⑤		5	〃 ③	
6	〃 ⑥		6	b. 肝不全・肝性昏睡 ①	
7	〃 ⑦		7	〃 ②	
8	8. 脾機能検査の解釈 ①		8	〃 ③	
9	〃 ②		9	c. 門脈圧亢進症 ①	
10	〃 ③		10	〃 ②	
11	〃 ④		11	〃 ③	
12	〃 ⑤		12	d. 肝・腎症候群 ①	
13	9. 脾の画像診断 ①		13	〃 ②	
14	〃 ②		14	e. 肝炎ウイルス ①	
15	〃 ③		15	〃 ②	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病分子病態学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	松本伸行	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。			
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2.消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法の作用機序を理解し説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	細胞周期(Ⅰ)	1	細胞周期(Ⅳ)	
2	〃(Ⅱ)	2	〃(Ⅴ)	
3	〃(Ⅲ)	3	〃(Ⅵ)	
4	細胞内シグナル伝達(Ⅰ)	4	細胞内シグナル伝達(Ⅲ)	
5	〃(Ⅱ)	5	〃(Ⅳ)	
6	細胞骨格(Ⅰ)	6	細胞骨格(Ⅲ)	
7	〃(Ⅱ)	7	〃(Ⅳ)	
8	発癌遺伝子(Ⅰ)	8	発癌遺伝子(Ⅳ)	
9	〃(Ⅱ)	9	〃(Ⅴ)	
10	〃(Ⅲ)	10	〃(Ⅵ)	
11	癌抑制遺伝子(Ⅰ)	11	癌抑制遺伝子(Ⅳ)	
12	〃(Ⅱ)	12	〃(Ⅴ)	
13	〃(Ⅲ)	13	〃(Ⅵ)	
14	発癌メカニズム(Ⅰ)	14	発癌メカニズム(Ⅲ)	
15	〃(Ⅱ)	15	〃(Ⅳ)	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化管病態学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	山本博幸	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期Ⅰ・後期Ⅰ)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席④)		後期(回)	内 容 (出席④)
1	1. 食道疾患症例①		1	〃 ④
2	〃 ②		2	〃 ⑤
3	〃 ③		3	〃 ⑥
4	〃 ④		4	4. 大腸疾患症例①
5	〃 ⑤		5	〃 ②
6	〃 ⑥		6	〃 ③
7	2. 胃・十二指腸疾患症例①		7	〃 ④
8	〃 ②		8	〃 ⑤
9	〃 ③		9	〃 ⑥
10	〃 ④		10	5. 消化管その他症例①
11	〃 ⑤		11	〃 ②
12	〃 ⑥		12	〃 ③
13	3. 小腸疾患症例①		13	〃 ④
14	〃 ②		14	〃 ⑤
15	〃 ③		15	〃 ⑥

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	肝臓病態学 I		必修/選択	必修
担当教員	奥瀬千晃	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	1. ウイルス性肝炎症例①		1	4. 胆道系症例①
2	〃 ②		2	〃 ②
3	〃 ③		3	〃 ③
4	〃 ④		4	〃 ④
5	〃 ⑤		5	〃 ⑤
6	2. 肝細胞がん症例①		6	5. 膵疾患症例①
7	〃 ②		7	〃 ②
8	〃 ③		8	〃 ③
9	〃 ④		9	〃 ④
10	〃 ⑤		10	〃 ⑤
11	3. 代謝性肝炎症例①		11	6. 肝・胆・膵その他症例①
12	〃 ②		12	〃 ②
13	〃 ③		13	〃 ③
14	〃 ④		14	〃 ④
15	〃 ⑤		15	〃 ⑤

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器内視鏡学実習 I		必修/選択	必修
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	3 単位(前期 1.5・後期 1.5)	履修年次	1 年	
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。			
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。			
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	内視鏡モデル実習		1	内視鏡モデル実習
2	〃		2	〃
3	〃		3	〃
4	〃		4	〃
5	〃		5	〃
6	〃		6	〃
7	内視鏡画像特論(Ⅰ)		7	〃
8	〃(Ⅱ)		8	〃
9	〃(Ⅲ)		9	〃
10	内視鏡モデル実習		10	〃
11	〃		11	〃
12	〃		12	〃
13	〃		13	〃
14	〃		14	〃
15	〃		15	〃

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅲ		必修/選択	必修
担当教員	山本博幸	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	1. GERD と NERD ①		1	5. クロウン病の治療 ①
2	〃 ②		2	〃 ②
3	〃 ③		3	〃 ③
4	〃 ④		4	〃 ④
5	2. FD ①		5	6. 胃がん治療(非外科的) ①
6	〃 ②		6	〃 ②
7	〃 ③		7	〃 ③
8	〃 ④		8	〃 ④
9	3. H.pylori 感染症 ①		9	7. 大腸がんの治療 ①
10	〃 ②		10	〃 ②
11	〃 ③		11	〃 ③
12	〃 ④		12	〃 ④
13	4. 潰瘍性大腸炎の治療 ①		13	8. 抄読会①
14	〃 ②		14	〃 ②
15	〃 ③		15	〃 ③

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅳ		必修/選択	選択
担当教員	山本博幸	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。			
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2.消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)	後期(回)	内 容 (出席㊥)	
1	1. 大腸がんの遺伝子診断①	1	〃 ②	
2	〃 ②	2	9. 消化器がん化学療法 up date①	
3	2. 分子腫瘍学①	3	〃 ②	
4	〃 ②	4	10.ウイルス肝炎の進歩①病態・診断	
5	3. 転移の分子機構①	5	〃 ②	
6	〃 ②	6	11.ウイルス肝炎診療の進歩②治療	
7	4. 膵がんの分子機構①	7	〃 ②	
8	〃 ②	8	12.ウイルス性肝炎の肝外病変①	
9	5. 慢性膵炎の up to date①	9	〃 ②	
10	〃 ②	10	13.肝がんの分子機構①	
11	6. 慢性膵炎の線維化機構①	11	〃 ②	
12	〃 ②	12	14.肝再生機構①	
13	7. 食道がん治療のストラテジー①	13	〃 ②	
14	〃 ②	14	15.肝線維化機構①	
15	8. 分子標的治療の実際①	15	〃 ②	

講義担当者承認

㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	消化器・肝臓病分子病態学Ⅱ		必修/選択	選択	
担当教員	松本伸行	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	1年(2 年でも可)		
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。				
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。				
達成目標	1.消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2.消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法の作用機序を理解し説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席④)		後期(回)	内 容 (出席④)	
1	分子標的治療(Ⅰ)		1	分子標的治療(VI)	
2	〃 (Ⅱ)		2	〃 (Ⅶ)	
3	〃 (Ⅲ)		3	〃 (Ⅷ)	
4	〃 (Ⅳ)		4	〃 (Ⅸ)	
5	〃 (Ⅴ)		5	〃 (Ⅹ)	
6	モノクローナル抗体(Ⅰ)		6	モノクローナル抗体(Ⅲ)	
7	〃 (Ⅱ)		7	〃 (Ⅳ)	
8	抗体治療基礎(Ⅰ)		8	抗体治療基礎(Ⅳ)	
9	〃 (Ⅱ)		9	〃 (Ⅴ)	
10	〃 (Ⅲ)		10	〃 (Ⅵ)	
11	抗体治療応用(Ⅰ)		11	抗体治療応用(Ⅳ)	
12	〃 (Ⅱ)		12	〃 (Ⅴ)	
13	〃 (Ⅲ)		13	〃 (Ⅵ)	
14	膵癌化学療法(Ⅰ)		14	膵癌化学療法(Ⅲ)	
15	〃 (Ⅱ)		15	〃 (Ⅳ)	

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化管病態学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	1. 食道疾患症例①	1	〃 ④	
2	〃 ②	2	〃 ⑤	
3	〃 ③	3	〃 ⑥	
4	〃 ④	4	4. 大腸疾患症例①	
5	〃 ⑤	5	〃 ②	
6	〃 ⑥	6	〃 ③	
7	2. 胃・十二指腸疾患症例①	7	〃 ④	
8	〃 ②	8	〃 ⑤	
9	〃 ③	9	〃 ⑥	
10	〃 ④	10	5. 消化管その他症例①	
11	〃 ⑤	11	〃 ②	
12	〃 ⑥	12	〃 ③	
13	3. 小腸疾患症例①	13	〃 ④	
14	〃 ②	14	〃 ⑤	
15	〃 ③	15	〃 ⑥	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	肝臓病態学Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	鈴木通博	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。				
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。				
達成目標	1.基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席④)		後期(回)	内 容 (出席④)	
1	1. ウイルス性肝炎症例①		1	4. 胆道系症例①	
2	〃 ②		2	〃 ②	
3	〃 ③		3	〃 ③	
4	〃 ④		4	〃 ④	
5	〃 ⑤		5	〃 ⑤	
6	2. 肝細胞がん症例①		6	5. 膵疾患症例①	
7	〃 ②		7	〃 ②	
8	〃 ③		8	〃 ③	
9	〃 ④		9	〃 ④	
10	〃 ⑤		10	〃 ⑤	
11	3. 代謝性肝炎症例①		11	6. 肝・胆・膵その他症例①	
12	〃 ②		12	〃 ②	
13	〃 ③		13	〃 ③	
14	〃 ④		14	〃 ④	
15	〃 ⑤		15	〃 ⑤	

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅱ		必修/選択	選択	
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。				
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。				
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	内視鏡原理(Ⅰ)		1	内視鏡原理(Ⅲ)	
2	〃 (Ⅱ)		2	〃 (Ⅳ)	
3	前処置(Ⅰ)		3	前処置(Ⅲ)	
4	〃 (Ⅱ)		4	〃 (Ⅳ)	
5	上部消化管内視鏡挿入(Ⅰ)		5	上部消化管内視鏡挿入(Ⅳ)	
6	〃 (Ⅱ)		6	〃 (Ⅴ)	
7	〃 (Ⅲ)		7	〃 (Ⅵ)	
8	下部消化管内視鏡挿入(Ⅰ)		8	下部消化管内視鏡挿入(Ⅳ)	
9	〃 (Ⅱ)		9	〃 (Ⅴ)	
10	〃 (Ⅲ)		10	〃 (Ⅵ)	
11	内視鏡画像特論(Ⅰ)		11	内視鏡画像特論(Ⅳ)	
12	〃 (Ⅱ)		12	〃 (Ⅴ)	
13	〃 (Ⅲ)		13	〃 (Ⅵ)	
14	抄読会		14	抄読会	
15	〃		15	〃	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅴ		必修/選択	必修
担当教員	高橋秀明	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)		後期(回)	内 容 (出席@)
1	1. B型肝炎の新しい治療 ①		1	6. 自己免疫性肝炎 ①
2	〃 ②		2	〃 ②
3	〃 ③		3	〃 ③
4	2. C型肝炎の抗ウイルス療法 ①		4	7. 胆石治療①
5	〃 ②		5	〃 ②
6	〃 ③		6	〃 ③
7	3. 肝移植 ①		7	8. 自己免疫性膵炎①
8	〃 ②		8	〃 ②
9	〃 ③		9	〃 ③
10	4. 劇症肝炎の治療 ①		10	9. 急性膵炎
11	〃 ②		11	〃 ②
12	〃 ③		12	〃 ③
13	5. NASH ①		13	10. 慢性膵炎①
14	〃 ②		14	②
15	〃 ③		15	③

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅵ		必修/選択	選択
担当教員	奥瀬千晃	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。			
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2.消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	1. 大腸がんの遺伝子診断①	1	〃 ②	
2	〃 ②	2	9. 消化器がん化学療法 up date①	
3	2. 分子腫瘍学①	3	〃 ②	
4	〃 ②	4	10.ウイルス肝炎の進歩①病態・診断	
5	3. 転移の分子機構①	5	〃 ②	
6	〃 ②	6	11.ウイルス肝炎診療の進歩②治療	
7	4. 膵がんの分子機構①	7	〃 ②	
8	〃 ②	8	12.ウイルス性肝炎の肝外病変①	
9	5. 慢性膵炎の up to date①	9	〃 ②	
10	〃 ②	10	13.肝がんの分子機構①	
11	6. 慢性膵炎の線維化機構①	11	〃 ②	
12	〃 ②	12	14.肝再生機構①	
13	7. 食道がん治療のストラテジー①	13	〃 ②	
14	〃 ②	14	15.肝線維化機構①	
15	8. 分子標的治療の実際①	15	〃 ②	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病分子病態学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。			
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2.消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法の作用機序を理解し説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	肝臓の癌遺伝子(Ⅰ)		1	肝臓の癌遺伝子(Ⅳ)
2	〃 (Ⅱ)		2	〃 (Ⅴ)
3	〃 (Ⅲ)		3	〃 (Ⅵ)
4	肝臓の癌抑制遺伝子(Ⅰ)		4	肝臓の癌抑制遺伝子(Ⅳ)
5	〃 (Ⅱ)		5	〃 (Ⅴ)
6	〃 (Ⅲ)		6	〃 (Ⅵ)
7	発癌危険因子(Ⅰ)		7	発癌危険因子(Ⅳ)
8	〃 (Ⅱ)		8	〃 (Ⅴ)
9	〃 (Ⅲ)		9	〃 (Ⅵ)
10	発癌メカニズム(Ⅰ)		10	発癌メカニズム(Ⅳ)
11	〃 (Ⅱ)		11	〃 (Ⅴ)
12	〃 (Ⅲ)		12	〃 (Ⅵ)
13	発癌コントロール(Ⅰ)		13	発癌コントロール(Ⅳ)
14	〃 (Ⅱ)		14	〃 (Ⅴ)
15	〃 (Ⅲ)		15	〃 (Ⅵ)

講義担当者承認 ⑨

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化管病態学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	池田裕喜	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	1 年(2 年でも可)	
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	1. 食道疾患症例①		1	〃 ④
2	〃 ②		2	〃 ⑤
3	〃 ③		3	〃 ⑥
4	〃 ④		4	4. 大腸疾患症例①
5	〃 ⑤		5	〃 ②
6	〃 ⑥		6	〃 ③
7	2. 胃・十二指腸疾患症例①		7	〃 ④
8	〃 ②		8	〃 ⑤
9	〃 ③		9	〃 ⑥
10	〃 ④		10	5. 消化管その他症例①
11	〃 ⑤		11	〃 ②
12	〃 ⑥		12	〃 ③
13	3. 小腸疾患症例①		13	〃 ④
14	〃 ②		14	〃 ⑤
15	〃 ③		15	〃 ⑥

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	肝臓病態学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	1 年(2 年でも可)	
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	1. ウイルス性肝炎症例①		1	4. 胆道系症例①
2	〃 ②		2	〃 ②
3	〃 ③		3	〃 ③
4	〃 ④		4	〃 ④
5	〃 ⑤		5	〃 ⑤
6	2. 肝細胞がん症例①		6	5. 膵疾患症例①
7	〃 ②		7	〃 ②
8	〃 ③		8	〃 ③
9	〃 ④		9	〃 ④
10	〃 ⑤		10	〃 ⑤
11	3. 代謝性肝炎症例①		11	6. 肝・胆・膵その他症例①
12	〃 ②		12	〃 ②
13	〃 ③		13	〃 ③
14	〃 ④		14	〃 ④
15	〃 ⑤		15	〃 ⑤

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。			
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。			
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	内視鏡症例(Ⅰ)	1	内視鏡症例(Ⅰ)	
2	〃 (Ⅱ)	2	〃 (Ⅱ)	
3	〃 (Ⅲ)	3	〃 (Ⅲ)	
4	〃 (Ⅳ)	4	〃 (Ⅳ)	
5	〃 (Ⅴ)	5	〃 (Ⅴ)	
6	内視鏡特論(上部)	6	内視鏡特論(上部)	
7	〃 (下部)	7	〃 (下部)	
8	〃 (膝)	8	〃 (膝)	
9	内視鏡症例(Ⅵ)	9	内視鏡症例(Ⅵ)	
10	〃 (Ⅶ)	10	〃 (Ⅶ)	
11	〃 (Ⅷ)	11	〃 (Ⅷ)	
12	〃 (Ⅸ)	12	〃 (Ⅸ)	
13	〃 (Ⅹ)	13	〃 (Ⅹ)	
14	抄読会	14	抄読会	
15	〃	15	〃	

講義担当者承認

⑨

【52-4】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Medical Research)
研究指導教員	仁 木 久 照
研究・教育の概略	整形外科学は運動器の機能障害を主たる対象とし、その病理と治療法を研究し、かつ、これにともなう全身的、精神的影響にまで考慮をはらう学問である。 運動器は四肢、体幹を含むものであるが、これらに要求される機能は運動と姿勢保持の2つである。 解剖学で運動・支持器官といえば、骨・関節・筋・腱などであるが、整形外科学では、さらに脊髄・末梢神経、さらに四肢の血管に関する問題も含まれる。 治療法で観血的・非観血的、すなわち手術療法と整形外科的保存法に大別される。近年、手術療法には様々な生体内材料が用いられるようになり、これら生体内材料の強度、使用方法の適正化には工学的知識が要求され、学識領域としての医用生体工学が発展しつつあり、この領域の理解も必須である。整形外科的保存療法もかつては整形外科の理学療法が主体を占めていたが、現在ではリハビリテーション医学としての理学療法、作業療法が広く行われるようになっている。したがって全人的医療、包括的医療を実施する上で、整形外科学とリハビリテーション医学とは不即不離の関係にある。 このように広範囲に及ぶ整形外科学全領域にわたる進歩を容易に理解し、吸収する能力を養う素地をつくるのが大学院学生には必要となる。さらに個々の大学院生には臨床、基礎に関連した研究テーマを与えて、この分野を習得することが目標となる
研究項目	1. 骨粗鬆症性脊椎骨折後に起こる姿勢異常が肩前方挙上に及ぼす影響について 2. 仮骨延長における力学的強度向上の探索 3. 手関節疾患領域の解剖学的研究 4. 肘関節疾患領域の解剖学的研究 5. 筋肉生理の基礎的研究 6. 転倒予防の臨床的研究 7. 後脛骨筋機能不全の臨床研究 8. 同種移植の免疫応答の基礎的研究など
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読むこと

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	整形外科外傷学概論 実習		必修/選択	必修
担当教員	松下和彦・赤澤 努	担当教員連絡先	内線3435	
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1 年	
テーマと目的	外傷処置の基本的技術、超音波検査、手術手技(関節鏡・マイクロサージャリー技術)を実習する			
講義計画	関節鏡の手技を実際のモデルを使用して行う(整形外科研究室にて) 顕微鏡での神経、血管縫合の基礎を縫合キットやラットを使用して行う 超音波検査を実際の機械を使用して、その手技を習得する			
達成目標	1. 関節鏡・超音波検査の基本的な手技と方法を理解し、説明できる 2. 神経・血管縫合の基本的な手技と方法を理解し、説明できる			
教科書・参考書	1. 整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社) 2. 整形外科超音波診断マニュアル(MB orthopaedics)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	関節鏡の歴史		1	マイクロサージャリー手技の基本(1)
2	関節鏡の操作の基本		2	マイクロサージャリー手技の基本(2)
3	膝関節鏡(1)の実際		3	マイクロサージャリー手技の基本(3)
4	膝関節鏡(2)の実際		4	神経縫合の実際(1)
5	膝関節鏡(3)の実際		5	神経縫合の実際(2)
6	膝関節鏡(4)の実際		6	神経縫合の実際(3)
7	肩関節鏡(1)の実際		7	血管縫合の実際(1)
8	肩関節鏡(2)の実際		8	血管縫合の実際(2)
9	肩関節鏡(3)の実際		9	血管縫合の実際(3)
10	肘関節鏡(1)の実際		10	血管縫合の実際(4)
11	肘関節鏡(2)の実際		11	超音波検査の基本
12	手関節鏡(1)の実際		12	超音波検査の実際
13	手関節鏡(2)の実際		13	超音波検査の実際
14	前期のまとめ(1)		14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)		15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科疾患・外傷の手術法・適応概論（Ⅰ）		必修/選択	必修	
担当教員	仁木久照	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づいて、基本的な手術適応、治療法を理解する				
講義計画	手術症例検討会で患者の病状経過、手術法、合併症の計画を立て、検討する。				
達成目標	1. 基本的な外傷、疾患の手術法、合併症について説明できる。 2. 患者の病態に基づいた管理を計画できる。				
教科書・参考書	1. 片山整形外科手術書(南江堂) 2. 整形外科医のための手術解剖学図説				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	整形外科手術症例検討会(1)		1	整形外科手術症例検討会(1)	
2	整形外科手術症例検討会(2)		2	整形外科手術症例検討会(2)	
3	整形外科手術症例検討会(3)		3	整形外科手術症例検討会(3)	
4	整形外科手術症例検討会(4)		4	整形外科手術症例検討会(4)	
5	整形外科手術症例検討会(5)		5	整形外科手術症例検討会(5)	
6	整形外科手術症例検討会(6)		6	整形外科手術症例検討会(6)	
7	整形外科手術症例検討会(7)		7	整形外科手術症例検討会(7)	
8	整形外科手術症例検討会(8)		8	整形外科手術症例検討会(8)	
9	整形外科手術症例検討会(9)		9	整形外科手術症例検討会(9)	
10	整形外科手術症例検討会(10)		10	整形外科手術症例検討会(10)	
11	整形外科手術症例検討会(11)		11	整形外科手術症例検討会(11)	
12	整形外科手術症例検討会(12)		12	整形外科手術症例検討会(12)	
13	整形外科手術症例検討会(13)		13	整形外科手術症例検討会(13)	
14	整形外科手術症例検討会(14)		14	整形外科手術症例検討会(14)	
15	整形外科手術症例検討会(前期まとめ)		15	整形外科手術症例検討会(後期まとめ)	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	整形外科疾患・外傷の手術法・適応概論（Ⅱ）		必修/選択	必修
担当教員	仁木久照	担当教員連絡先	内線3435	
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて、整形外科全般の疾患・外傷の手術適応、治療法を理解する			
講義計画	手術症例検討会で患者の病状経過、手術法、合併症の計画を立て、検討する。			
達成目標	1. 基本的な外傷、疾患の手術法、合併症について説明できる。 2. 患者の病態に基づいた管理を計画できる。 3. 保存療法の限界と適応を説明できる。			
教科書・参考書	1. 最新整形外科学体系（中山書店） 2. 整形外科医のための手術解剖学図説 3. 神中整形外科学（南山堂）			
準備学習（予習・復習・時間）	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期（回）	内 容（出席㊥）		後期（回）	内 容（出席㊥）
1	整形外科手術症例検討会（1）		1	整形外科手術症例検討会（1）
2	整形外科手術症例検討会（2）		2	整形外科手術症例検討会（2）
3	整形外科手術症例検討会（3）		3	整形外科手術症例検討会（3）
4	整形外科手術症例検討会（4）		4	整形外科手術症例検討会（4）
5	整形外科手術症例検討会（5）		5	整形外科手術症例検討会（5）
6	整形外科手術症例検討会（6）		6	整形外科手術症例検討会（6）
7	整形外科手術症例検討会（7）		7	整形外科手術症例検討会（7）
8	整形外科手術症例検討会（8）		8	整形外科手術症例検討会（8）
9	整形外科手術症例検討会（9）		9	整形外科手術症例検討会（9）
10	整形外科手術症例検討会（10）		10	整形外科手術症例検討会（10）
11	整形外科手術症例検討会（11）		11	整形外科手術症例検討会（11）
12	整形外科手術症例検討会（12）		12	整形外科手術症例検討会（12）
13	整形外科手術症例検討会（13）		13	整形外科手術症例検討会（13）
14	整形外科手術症例検討会（14）		14	整形外科手術症例検討会（14）
15	整形外科手術症例検討会（前期まとめ）		15	整形外科手術症例検討会（後期まとめ）

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科外傷学概論(Ⅰ)		必修/選択	必修	
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	代表的な骨折、外傷、関節外傷の基本的診察法と治療の原則を理解する				
講義計画	実際の症例、X線所見から代表的な骨折、外傷、関節外傷の病態を検討する。				
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の外傷の診断と治療の要点を説明できる 2. 開放骨折の初期治療の要点を説明できる				
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	骨折の病理(1)		1	肩反復性脱臼の病態・治療	
2	骨折の病理(2)		2	モンテジア骨折の病態・治療	
3	開放骨折の初期治療(1)		3	ガレアジイ骨折の病態・治療	
4	開放骨折の初期治療(2)		4	股関節脱臼の病態・治療	
5	局所救急処置の基本		5	大腿骨頸部骨折の病態・治療(1)	
6	鎖骨骨折の病態・治療		6	大腿骨頸部骨折の病態・治療(2)	
7	腕神経叢麻痺の病態・治療		7	大腿骨頸部骨折の病態・治療(3)	
8	上腕骨骨折の病態・治療		8	大腿骨頸部骨折の病態・治療(4)	
9	上腕骨顆上骨折の病態・治療		9	大腿骨頸部骨折の病態・治療(5)	
10	上腕骨外顆骨折の病態・治療		10	大腿骨骨折の病態・治療	
11	前腕骨骨折の病態・治療		11	小児大腿骨頸部骨折の病態・治療	
12	橈骨遠位端骨折の病態・治療(1)		12	膝蓋骨骨折の病態・治療	
13	橈骨遠位端骨折の病態・治療(2)		13	大腿骨骨折顆上の病態・治療	
14	肩鎖関節脱臼の病態・治療		14	予備日	
15	前期のまとめ(総合討論と発表)		15	後期のまとめ(総合討論と発表)	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科外傷学概論（Ⅱ）		必修/選択	必修	
担当教員	仁木久照	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	2年		
テーマと目的	代表的な骨折、外傷、関節外傷の基本的診察法と治療の原則を理解する				
講義計画	実際の症例、X線所見から代表的な骨折、外傷、関節外傷の病態を検討する。				
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の外傷の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 開放骨折の初期治療と機能再建法について説明できる				
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	下腿骨骨折の病態・治療		1	舟状骨骨折の病態・治療	
2	足関節骨折の病態・治療		2	手指骨折の病態・治療	
3	アキレス腱断裂の病態・治療		3	指屈筋腱断裂の病態・治療(1)	
4	距骨骨折の病態・治療		4	指屈筋腱断裂の病態・治療(2)	
5	胸郭外傷の病態・治療		5	指屈筋腱断裂の病態・治療(3)	
6	頸椎外傷の病態・治療		6	伸筋腱断裂の病態・治療	
7	胸椎外傷の病態・治療		7	切断指の病態・治療	
8	腰椎外傷の病態・治療		8	末梢神経損傷の病態・治療	
9	頸椎捻挫の病態・治療		9	血管損傷の病態・治療	
10	骨盤骨折の病態・治療(1)		10	脊髄損傷の病態・治療(1)	
11	骨盤骨折の病態・治療(2)		11	脊髄損傷の病態・治療(2)	
12	骨盤骨折の病態・治療(3)		12	脊髄損傷の病態・治療(3)	
13	骨盤骨折の病態・治療(4)		13	分娩麻痺の病態・治療	
14	手の外科外傷の病態		14	予備日	
15	前期のまとめ(総合討論と発表)		15	後期のまとめ(総合討論と発表)	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科疾患総論(Ⅰ)		必修/選択	必修	
担当教員	赤澤 努	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的疾患の病態を理解する				
講義計画	整形外科学の基本的疾患(感染、代謝、系統、退行性疾患、リウマチ性疾患など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する				
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる				
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	骨の生理・構造・生化学(1)		1	筋肉の構造	
2	骨の生理・構造・生化学(2)		2	筋肉の生理	
3	骨の生理・構造・生化学(3)		3	筋肉の生化学	
4	骨の生理・構造・生化学(4)		4	神経の構造	
5	関節の構造と生化学(1)		5	神経の生理	
6	関節の構造と生化学(2)		6	神経の生化学	
7	関節の構造と生化学(3)		7	整形外科診断学(1)	
8	関節の構造と生化学(4)		8	整形外科診断学(2)	
9	骨・関節の病態生理(1)		9	整形外科診断学(3)	
10	骨・関節の病態生理(2)		10	整形外科治療学(保存 1)	
11	骨・関節の病態生理(3)		11	整形外科治療学(保存 2)	
12	骨・関節の病態生理(4)		12	整形外科治療学(観血 1)	
13	骨の発育		13	整形外科治療学(観血 2)	
14	骨の再生		14	整形外科治療学(観血 3)	
15	前期のまとめ(総合討論と発表)		15	後期のまとめ(総合討論と発表)	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科疾患総論(Ⅱ)		必修/選択	必修	
担当教員	赤澤 努	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて代表的、まれな疾患の病態を理解する				
講義計画	整形外科の基本的疾患(感染、代謝、系統、退行性疾患、リウマチ性疾患など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する				
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる				
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	骨・関節の感染症(1)		1	骨系統疾患(1)	
2	骨・関節の感染症(1)		2	骨系統疾患(1)	
3	骨・関節の感染症(1)		3	先天性疾患(1)	
4	骨・関節の感染症(1)		4	先天性疾患(2)	
5	リウマチとその類似疾患(1)		5	先天性疾患(3)	
6	リウマチとその類似疾患(2)		6	骨腫瘍(1)	
7	リウマチとその類似疾患(3)		7	骨腫瘍(2)	
8	代謝疾患		8	骨腫瘍(3)	
9	退行性疾患(1)		9	軟部腫瘍(1)	
10	退行性疾患(2)		10	軟部腫瘍(2)	
11	四肢循環障害(1)		11	麻痺性疾患(1)	
12	四肢循環障害(2)		12	麻痺性疾患(2)	
13	阻血性疾患(1)		13	筋疾患(1)	
14	阻血性疾患(2)		14	筋疾患(2)	
15	前期のまとめ・討議		15	後期のまとめ・討議	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科疾患各論(Ⅰ)		必修/選択	必修	
担当教員	鳥居良昭	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的疾患の詳しい病態と治療法を理解する				
講義計画	整形外科の基本的疾患(関節・脊椎・脊髄・スポーツ損傷など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する				
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる				
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	骨髄炎の病態・治療		1	ペルテス病の病態・治療	
2	化膿性関節の病態・治療		2	キーンバック病の病態・治療	
3	骨・関節結核の病態・治療		3	他の骨端症の病態・治療	
4	関節リウマチの病態・治療		4	レイノー病の病態・治療	
5	痛風の病態・治療		5	閉塞性動脈硬化症の病態・治療	
6	関節ねずみの病態・治療		6	肘部管症候群の病態・治療	
7	血友病性関節症の病態・治療		7	ギオン管症候群の病態・治療	
8	シャルコー関節の病態・治療		8	手根管症候群の病態・治療	
9	骨肉腫の病態・治療		9	前・後骨間神経症候群の病態・治療	
10	骨巨細胞腫の病態・治療		10	足根管症候群の病態・治療	
11	ユーイング肉腫の病態・治療		11	骨形成不全の病態・治療	
12	転移性骨腫瘍の病態・治療		12	骨軟化症の病態・治療	
13	類骨骨腫の病態・治療		13	くる病の病態・治療	
14	骨粗鬆症の病態・治療		14	筋性斜頸の病態・治療	
15	前期のまとめ・討議		15	後期のまとめ・討議	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科疾患各論(Ⅱ)		必修/選択	必修	
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて代表的、まれな疾患の病態を理解する				
講義計画	整形外科の基本的疾患(関節・脊椎・脊髄・スポーツ損傷など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する				
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる				
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	骨粗鬆症の病態・治療(1)		1	大腿骨頭壊死の病態・治療	
2	骨粗鬆症の病態・治療(2)		2	変形性膝関節症の病態・治療(1)	
3	脳性麻痺の病態・治療		3	変形性膝関節症の病態・治療(2)	
4	変形性脊椎症の病態・治療		4	内反足の病態・治療	
5	頸髄症の病態・治療		5	扁平足の病態・治療	
6	椎間板ヘルニアの病態・治療		6	変形性足関節症の病態・治療	
7	腰椎すべり症の病態・治療		7	スポーツ障害の病態・治療	
8	側彎症の病態・治療		8	化学療法の実際	
9	脊髄腫瘍の病態・治療		9	脊柱管狭窄症の病態・治療(1)	
10	肩関節脱臼の病態・治療		10	脊柱管狭窄症の病態・治療(2)	
11	肩周囲炎の病態・治療		11	予備日	
12	テニス肘の病態・治療		12	予備日	
13	先天性股関節脱臼の病態・治療		13	整形疾患全体の病態・治療	
14	変形性股関節症の病態・治療		14	後期のまとめ・討議	
15	前期のまとめ・討議		15	後期のまとめ・討議	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	リハビリテーション医学概論(Ⅰ)		必修/選択	必修	
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	整形外科に関するリハビリテーションの概念・適応を理解する				
講義計画	整形外科の基本的疾患・外傷の症例を通じてリハビリテーションの概念と適応を理解し、社会復帰までの管理を検討する				
達成目標	1. 症例におけるリハビリテーションの適応と医師の役割を説明できる 2. 日常生活動作の評価と要介護患者の退院計画が立案できる				
教科書・参考書	1. 現代リハビリテーション医学(千野直一編、金原出版) 2. 義肢装具のチェックポイント第6版(医学書院)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	リハビリテーション医学の定義		1	運動障害の評価(1)	
2	リハビリテーション医学の歴史		2	運動障害の評価(2)	
3	リハビリテーション医療関連職		3	疼痛の評価	
4	機能解剖(上肢)		4	日常生活動作の評価(1)	
5	機能解剖(下肢)		5	日常生活動作の評価(2)	
6	機能解剖(体幹)		6	治療学(筋力増強訓練)	
7	反射		7	治療学(持久力訓練)	
8	姿勢		8	治療学(関節可動域訓練)	
9	歩行		9	物理療法(1)	
10	上肢の動作		10	物理療法(2)	
11	筋電図(1)		11	物理療法(3)	
12	筋電図(2)		12	バイオフィードバック療法	
13	筋電図(3)		13	牽引療法	
14	前期総合討論(1)		14	後期総合討論(1)	
15	前期総合討論(2)		15	後期総合討論(2)	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	リハビリテーション医学概論(Ⅱ)		必修/選択	必修	
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	整形外科に関するリハビリテーションの概念・適応を理解する				
講義計画	整形外科の基本的疾患・外傷の症例を通じてリハビリテーションの概念と適応を理解し、社会復帰までの管理を検討すること、さらに整形外科要介護患者の退院計画を立案する				
達成目標	1. 症例におけるリハビリテーションの適応と医師の役割を説明できる 2. 日常生活動作の評価と要介護患者の退院計画が立案できる 3. 脊髄損傷後のリハビリテーション計画の立案と退院計画を説明できる				
教科書・参考書	1. 現代リハビリテーション医学(千野直一編、金原出版) 2. 義肢装具のチェックポイント第6版(医学書院)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	水治療		1	リハビリテーション器械(1)(車椅子)	
2	電気治療		2	リハビリテーション器械(2)(車椅子)	
3	神経ブロック		3	リハビリテーション各論(脳性麻痺)	
4	歩行訓練		4	リハビリテーション各論(脊髄損傷1)	
5	作業療法(1)		5	リハビリテーション各論(脊髄損傷2)	
6	作業療法(2)		6	リハビリテーション各論(脊髄損傷3)	
7	作業療法(3)		7	リハビリテーション各論(脊髄損傷4)	
8	作業療法(4)		8	切断	
9	義肢・装具療法(1)		9	スポーツ外傷とリハビリテーション	
10	義肢・装具療法(2)		10	在宅リハビリテーション	
11	義肢・装具療法(3)		11	社会保障	
12	義肢・装具療法(4)		12	身体障害診断書の書き方	
13	前期総合討論(1)		13	後期総合討論(1)	
14	前期総合討論(2)		14	後期総合討論(2)	
15	前期総合討論(3)		15	後期総合討論(3)	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(Ⅱ)		必修/選択	選択	
担当教員	赤澤 努	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年		
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する				
講義計画	血管縫合の基礎を縫合キットやラットを使用して行う				
達成目標	神経・血管縫合の基本的手技と方法を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	マイクロサージャリー手技の基本(1)		1	マイクロサージャリー手技の基本(4)	
2	マイクロサージャリー手技の基本(2)		2	マイクロサージャリー手技の基本(5)	
3	マイクロサージャリー手技の基本(3)		3	マイクロサージャリー手技の基本(6)	
4	神経縫合の実際(1)		4	神経縫合の実際(4)	
5	神経縫合の実際(2)		5	神経縫合の実際(5)	
6	神経縫合の実際(3)		6	神経縫合の実際(6)	
7	血管縫合の実際(1)		7	血管縫合の実際(8)	
8	血管縫合の実際(2)		8	血管縫合の実際(9)	
9	血管縫合の実際(3)		9	血管縫合の実際(10)	
10	血管縫合の実際(4)		10	血管縫合の実際(11)	
11	血管縫合の実際(5)		11	血管縫合の実際(12)	
12	血管縫合の実際(6)		12	血管縫合の実際(13)	
13	血管縫合の実際(7)		13	血管縫合の実際(14)	
14	前期のまとめ(1)		14	後期のまとめ(1)	
15	前期のまとめ(2)		15	後期のまとめ(2)	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(Ⅲ)		必修/選択	選択
担当教員	松下和彦	担当教員連絡先	内線3435	
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年	
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する			
講義計画	血管縫合の基礎を縫合キットやラットを使用して行う			
達成目標	神経・血管縫合の基本的手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。			
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	マイクロサージャリー手技の基本(1)		1	マイクロサージャリー手技の基本(4)
2	マイクロサージャリー手技の基本(2)		2	マイクロサージャリー手技の基本(5)
3	マイクロサージャリー手技の基本(3)		3	マイクロサージャリー手技の基本(6)
4	神経縫合の実際(1)		4	神経縫合の実際(4)
5	神経縫合の実際(2)		5	神経縫合の実際(5)
6	神経縫合の実際(3)		6	神経縫合の実際(6)
7	血管縫合の実際(1)		7	血管縫合の実際(8)
8	血管縫合の実際(2)		8	血管縫合の実際(9)
9	血管縫合の実際(3)		9	血管縫合の実際(10)
10	血管縫合の実際(4)		10	血管縫合の実際(11)
11	血管縫合の実際(5)		11	血管縫合の実際(12)
12	血管縫合の実際(6)		12	血管縫合の実際(13)
13	血管縫合の実際(7)		13	血管縫合の実際(14)
14	前期のまとめ(1)		14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)		15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(Ⅳ)		必修/選択	選択	
担当教員	鳥居良昭	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	2年		
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する				
講義計画	血管縫合の応用を縫合キットやラットを使用して行う				
達成目標	神経・血管縫合の応用手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。				
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	マイクロサージャリー手技の応用(1)		1	マイクロサージャリー手技の応用(4)	
2	マイクロサージャリー手技の応用(2)		2	マイクロサージャリー手技の応用(5)	
3	マイクロサージャリー手技の応用(3)		3	マイクロサージャリー手技の応用(6)	
4	神経縫合の実際(1)		4	神経縫合の実際(4)	
5	神経縫合の実際(2)		5	神経縫合の実際(5)	
6	神経縫合の実際(3)		6	神経縫合の実際(6)	
7	血管縫合の実際(1)		7	血管縫合の実際(8)	
8	血管縫合の実際(2)		8	血管縫合の実際(9)	
9	血管縫合の実際(3)		9	血管縫合の実際(10)	
10	血管縫合の実際(4)		10	血管縫合の実際(11)	
11	血管縫合の実際(5)		11	血管縫合の実際(12)	
12	血管縫合の実際(6)		12	血管縫合の実際(13)	
13	血管縫合の実際(7)		13	血管縫合の実際(14)	
14	前期のまとめ(1)		14	後期のまとめ(1)	
15	前期のまとめ(2)		15	後期のまとめ(2)	

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(V)		必修/選択	選択
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435	
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	2年	
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する			
講義計画	血管縫合の応用を縫合キットやラットを使用して行う			
達成目標	神経・血管縫合の応用手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。			
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	マイクロサージャリー手技の実際(1)		1	マイクロサージャリー手技の実際(4)
2	マイクロサージャリー手技の実際(2)		2	マイクロサージャリー手技の実際(5)
3	マイクロサージャリー手技の実際(3)		3	マイクロサージャリー手技の実際(6)
4	神経縫合の実際(1)		4	神経縫合の実際(4)
5	神経縫合の実際(2)		5	神経縫合の実際(5)
6	神経縫合の実際(3)		6	神経縫合の実際(6)
7	血管縫合の実際(1)		7	血管縫合の実際(8)
8	血管縫合の実際(2)		8	血管縫合の実際(9)
9	血管縫合の実際(3)		9	血管縫合の実際(10)
10	血管縫合の実際(4)		10	血管縫合の実際(11)
11	血管縫合の実際(5)		11	血管縫合の実際(12)
12	血管縫合の実際(6)		12	血管縫合の実際(13)
13	血管縫合の実際(7)		13	血管縫合の実際(14)
14	前期のまとめ(1)		14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)		15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認

⑨

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(VI)		必修/選択	選択	
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	2年		
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する				
講義計画	血管縫合の応用を縫合キットやラットを使用して行う				
達成目標	神経・血管縫合の応用手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。				
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	マイクロサージャリー皮弁の実際(1)		1	マイクロサージャリー皮弁の実際(4)	
2	マイクロサージャリー皮弁の実際(2)		2	マイクロサージャリー皮弁の実際(5)	
3	マイクロサージャリー皮弁の実際(3)		3	マイクロサージャリー皮弁の実際(6)	
4	皮弁作成の実際(1)		4	皮弁作成の実際(11)	
5	皮弁作成の実際(2)		5	皮弁作成の実際(12)	
6	皮弁作成の実際(3)		6	皮弁作成の実際(13)	
7	皮弁作成の実際(4)		7	皮弁作成の実際(14)	
8	皮弁作成の実際(5)		8	皮弁作成の実際(15)	
9	皮弁作成の実際(6)		9	皮弁作成の実際(16)	
10	皮弁作成の実際(7)		10	皮弁作成の実際(17)	
11	皮弁作成の実際(8)		11	皮弁作成の実際(18)	
12	皮弁作成の実際(9)		12	皮弁作成の実際(19)	
13	皮弁作成の実際(10)		13	皮弁作成の実際(20)	
14	前期のまとめ(1)		14	後期のまとめ(1)	
15	前期のまとめ(2)		15	後期のまとめ(2)	

講義担当者承認

⑨

【52-5】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Medical Research)
研究指導教員	信 岡 祐 彦
研究・教育の概略	このコースは、臨床検査を中心として病態解析を行う臨床医学の一分野であり、臨床検査情報学、臨床生理機能検査医学、臨床血液学、臨床化学、臨床微生物学、臨床免疫学などから構成される。臨床検査医学は、付属病院においては、臨床検査部と協力し診療に不可欠な臨床検査の質の維持・向上を行なうとともに、診断に直結する検査所見の判定を行なっている。すなわち、臨床検査医学は基礎医学と臨床医学を結ぶ架け橋となるような病態解析に関する研究を行い、さらに種々の検査を通して診断や治療に役立つ検査結果と関連する情報を臨床医に提供する役割を担っている。従って本コースは、各種臨床検査の持つ意義、内容を理解し、日常臨床における臨床検査の有効活用のための専門的知識と技術の修得を目標とする。 教育の概略は、まず総論的事項として、精度管理を含めた全般的な検査成績管理法、検査部における廃棄物処理法や安全対策など検査部の運営に関する事項、Evidence Based Laboratory Medicine:EBLM の実際など、臨床検査の基本について学ぶ。次に各論的事項として、一般臨床検査医学、医化学、血液検査、血清生化学検査、感染症検査、輸血などについて学ぶ。さらに本学の臨床検査医学大学院の特色として、心電図、脳波、呼吸機能検査などの各種生理機能検査と超音波検査について、専門的知識と技術の習得を到達目標としていることが挙げられる。また選択科目には、心臓電気生理学と血行動態・循環力学特論、臨床検査教育概論があり、臨床検査を中心とした心循環系の病態生理のみならず、医学教育や人材育成についてもより深く修得することが可能である。 一方、研究面においては、臨床検査医学が扱う領域は広範であり、超音波検査、心循環領域、および医学教育に関連する領域にある程度の絞って研究を行う。具体的な研究項目は、1. 循環器疾患における各種非観血的指標の臨床的意義、2. 超音波の各種臨床応用に関する研究、3. 医学教育と人材育成に関する研究、などである。
研究項目	1. 循環器疾患における各種非観血的指標の臨床的意義 2. 超音波の各種臨床応用に関する研究 3. 医学教育と人材育成に関する研究
準備学習(予習・復習)	1. 「標準臨床検査医学」(医学書院)を基本的な参考書とし、該当項目の概要を理解しておくこと 2. 超音波検査については、「超音波医学」(日本超音波医学会編)、または「超音波の基礎と装置」(ベクトル・コア)を基本的な参考書とし、該当項目の概要を理解しておくこと 3. 循環系については心機能と血流の計測法を理解しておくこと

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	臨床検査医学総論(1)		必修/選択	必修
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	臨床検査の基本について理解する。			
講義計画	各種臨床検査法、検査成績管理法、EBLM、など臨床検査に関する総論的事項について詳述する。			
達成目標	臨床検査の基本的事項を説明できる。			
教科書・参考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査法提要」金原出版			
準備学習(予習・復習・時間)	「標準臨床検査医学」第1章の概要を理解しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	診療における臨床検査の意義	1	基本的測定法および測定装置(1)	
2	臨床検査ガイドライン(1)	2	基本的測定法および測定装置(2)	
3	臨床検査ガイドライン(2)	3	基本的測定法および測定装置(3)	
4	臨床検査ガイドライン(3)	4	基本的測定法および測定装置(4)	
5	適正な検体採取と取り扱い(1)	5	基本的測定法および測定装置(5)	
6	適正な検体採取と取り扱い(2)	6	基本的測定法および測定装置(6)	
7	精度管理(1)	7	基本的測定法および測定装置(7)	
8	精度管理(2)	8	基本的測定法および測定装置(8)	
9	精度管理(3)	9	遺伝子検査の基礎技術(1)	
10	精度管理(4)	10	遺伝子検査の基礎技術(2)	
11	基準値・臨床判断値(1)	11	遺伝子検査の基礎技術(3)	
12	基準値・臨床判断値(2)	12	検査成績管理法(1)	
13	基準値・臨床判断値(3)	13	検査成績管理法(1)	
14	基準値・臨床判断値(4)	14	EBLM(1)	
15	基準値・臨床判断値(5)	15	EBLM(1)	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	臨床検査医学総論(2)		必修/選択	必修
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	臨床検査部の管理運営に関する総論的事項について習熟する。			
講義計画	検体管理、人事管理、検査部における安全対策など臨床検査部の管理運営に関する総論的事項について詳述する。			
達成目標	臨床検査の基本的事項を述べることができる。 臨床検査部の管理運営を実践できる。			
教科書・参考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査法提要」金原出版			
準備学習(予習・復習・時間)	「標準臨床検査医学」第1章の概要を理解しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	臨床検査部の体制	1		
2	臨床検査部の管理(1)	2		
3	臨床検査部の管理(2)	3		
4	臨床検査部の運営(1)	4		
5	臨床検査部の運営(2)	5		
6	職員教育(1)	6		
7	職員教育(2)	7		
8	多職種連携(1)	8		
9	多職種連携(2)	9		
10	多職種連携(3)	10		
11	多職種連携(4)	11		
12	医療安全と対策(1)	12		
13	医療安全と対策(2)	13		
14	医療安全と対策(3)	14		
15	医療安全と対策(4)	15		

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	一般臨床検査医学特論(1)		必修/選択	必修	
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512		
単位数	2 単位(前期1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	病態解析と診断に必要な一般臨床検査の基本的事項を理解する。				
講義計画	一般臨床検査について、意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈について詳述する。				
達成目標	各一般臨床検査の意義、目的、実施上の注意点について述べるができる。 各一般臨床検査の結果の解釈と日常診療における注意点を述べるができる。				
教科書・参考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査ガイド」文光堂				
準備学習(予習・復習・時間)	「標準臨床検査医学」第3、7、8、10 章の概要を理解しておくこと 1 時間				
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	尿検査(1)		1	臨床細菌検査(1)	
2	尿検査(2)		2	臨床細菌検査(2)	
3	尿検査(3)		3	臨床細菌検査(3)	
4	糞便検査		4	臨床細菌検査(4)	
5	穿刺液検査		5	抗酸菌検査(1)	
6	脳脊髄液検査		6	抗酸菌検査(2)	
7	精液検査		7	真菌検査	
8	体液量測定		8	ウイルス感染症と検査	
9	電解質・浸透圧測定(1)		9	ウイルス感染症検査法	
10	電解質・浸透圧測定(2)		10	リケッチア・クラミジア感染症検査法	
11	酸塩基平衡検査(1)		11	染色体検査法	
12	酸塩基平衡検査(2)		12	遺伝子検査	
13	輸液の基本(1)		13	病理検査(1)	
14	輸液の基本(2)		14	病理検査(2)	
15	輸液の基本(3)		15	病理検査(3)	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	一般臨床検査医学特論(2)		必修/選択	必修	
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512		
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	動脈硬化検査法、とくに血管壁硬化の指標について理解を深める。				
講義計画	血管壁硬化の指標を、生理機能検査、画像検査、血管内皮機能、血液・生化学マーカー、の4つの面から概説する。				
達成目標	血管壁硬化の評価法の理論と方法、それぞれの利点と欠点について詳述することができる。				
教科書・参考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査法提要」金原出版				
準備学習(予習・復習・時間)	臨床的な狭窄の評価法について基礎的事項を学習しておくこと 1 時間				
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席@)	後期(回)	内 容	(出席@)
1	生理機能検査(1) 電気生理学的検査		1		
2	生理機能検査(2) 脈波伝播速度		2		
3	生理機能検査(3) ABPI		3		
4	生理機能検査(4) 血圧、AI		4		
5	生理機能検査(5) 時相解析、STI		5		
6	画像検査(1) 頸動脈エコー		6		
7	画像検査(2) 心臓エコー		7		
8	画像検査(3) 超音波 Doppler 法		8		
9	画像検査(4) 下肢血管エコー		9		
10	画像検査(5) 血管内エコー		10		
11	画像検査(6) 動脈造影、冠動脈造影		11		
12	血管内皮機能		12		
13	血液・生化学マーカー(1) 感染症関連		13		
14	血液・生化学マーカー(2) 凝固線溶系		14		
15	血液・生化学マーカー(3) 脂質関連		15		

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	一般臨床検査医学特論(3)		必修/選択	必修
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	1 単位(後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	各種臨床検査の臨床応用について習熟する。			
講義計画	各種臨床検査法の臨床応用、身体所見、画像所見との対比を詳述する。			
達成目標	各種臨床検査法と他の所見との対比を述べることができる。 各種臨床検査法の日常臨床への応用について述べることができる。			
教科書・参考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査法提要」金原出版			
準備学習(予習・復習・時間)	主要な症候／病態と検査の適応について学習しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容
1			1	検体検査の臨床応用(1)
2			2	検体検査の臨床応用(2)
3			3	生理機能検査の臨床応用(1)
4			4	生理機能検査の臨床応用(2)
5			5	生理機能検査の臨床応用(3)
6			6	生理機能検査の臨床応用(4)
7			7	超音波検査(1)
8			8	超音波検査(2)
9			9	エックス線 CT
10			10	核医学イメージング(1)
11			11	核医学イメージング(2)
12			12	磁気共鳴イメージング
13			13	臨床検査と他の所見との対比(1)
14			14	臨床検査と他の所見との対比(1)
15			15	臨床検査と他の所見との対比(1)

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	一般臨床検査医学特論(4)		必修/選択	必修
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	各種臨床検査の相互の関連について理解する。			
講義計画	各種臨床検査法の相互の関連性について理解し、検査の重複や異なった結果に対する解釈について解説する。			
達成目標	各種臨床検査法の相互の関連について説明できる。 異なった結果に対する解釈を述べることができる。			
教科書・参考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査法提要」金原出版			
準備学習(予習・復習・時間)	主要な症候／病態と検査の適応について学習しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)	後期(回)	内 容 (出席㊥)	
1	初期診療(1)	1	甲状腺疾患	
2	初期診療(2)	2	代謝性疾患(1)	
3	救急診療(1)	3	代謝性疾患(2)	
4	救急診療(2)	4	膠原病(1)	
5	肝・胆疾患(1)	5	膠原病(2)	
6	肝・胆疾患(2)	6	膠原病(3)	
7	脾疾患	7	循環器系疾患(1)	
8	血液疾患(1)	8	循環器系疾患(2)	
9	血液疾患(2)	9	循環器系疾患(3)	
10	血液疾患(3)	10	循環器系疾患(4)	
11	腎疾患(1)	11	循環器系疾患(5)	
12	腎疾患(2)	12	呼吸器系疾患(1)	
13	内分泌疾患(1)	13	呼吸器系疾患(2)	
14	内分泌疾患(2)	14	神経・筋疾患(1)	
15	内分泌疾患(3)	15	神経・筋疾患(2)	

講義担当者承認 ㊥

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	臨床血液生化学特論(1)		必修/選択	必修
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	血液・凝固系検査、輸血検査法について学ぶ。			
講義計画	血液・凝固系検査と輸血に関連する検査法の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨床応用について詳述する。			
達成目標	血液・凝固系検査、輸血検査の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨床応用を述べることができる。			
教科書・参考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査ガイド」文光堂			
準備学習(予習・復習・時間)	「標準臨床検査医学」第4、9章の概要を理解しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	採血法と抗凝固薬	1	血液凝固・線溶の機序と検査(1)	
2	血球計数検査(1)	2	血液凝固・線溶の機序と検査(2)	
3	血球計数検査(2)	3	血液凝固・線溶の機序と検査(3)	
4	血液形態検査(1)	4	血液凝固・線溶検査の試材・器具	
5	血液形態検査(2)	5	血液凝固・線溶検査の基礎的検査法	
6	血液形態検査(3)	6	血管系および血小板機能検査(1)	
7	血液形態検査(4)	7	血管系および血小板機能検査(2)	
8	溶血性貧血に関する検査(1)	8	血管系および血小板機能検査(3)	
9	溶血性貧血に関する検査(2)	9	血管系および血小板機能検査(4)	
10	血液核医学的検査(1)	10	血管系および血小板機能検査(5)	
11	血液核医学的検査(2)	11	血管系および血小板機能検査(6)	
12	その他の血液関連検査	12	線溶系の検査(1)	
13	輸血関連検査(1)	13	線溶系の検査(2)	
14	輸血関連検査(2)	14	凝固・線溶活性の分子マーカー(1)	
15	組織適合性抗原(HLA)検査	15	凝固・線溶活性の分子マーカー(2)	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	臨床血液生化学特論(2)		必修/選択	必修	
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	臨床化学、臨床免疫検査法について学ぶ。				
講義計画	臨床化学、臨床免疫に関する検査法の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨床応用について詳述する。				
達成目標	臨床化学、臨床免疫検査法の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨床応用を述べることができる。				
教科書・参考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査ガイド」文光堂				
準備学習(予習・復習・時間)	「標準臨床検査医学」第5、6章の概要を理解しておくこと 1 時間				
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	臨床化学分析の基礎		1	免疫検査総論	
2	測定法の標準化と標準物質		2	免疫グロブリン・補体系の検査(1)	
3	血漿蛋白		3	免疫グロブリン・補体系の検査(2)	
4	非蛋白窒素化合物		4	リンパ球・食細胞(好中球)機能検査(1)	
5	糖質とその代謝関連物質(有機酸)		5	リンパ球・食細胞(好中球)機能検査(2)	
6	血清脂質とリポ蛋白(1)		6	サイトカイン・ケモカイン・接着分子(1)	
7	血清脂質とリポ蛋白(2)		7	サイトカイン・ケモカイン・接着分子(2)	
8	生体色素		8	アレルギー検査(1)	
9	微量元素		9	アレルギー検査(2)	
10	酵素とアイソザイム測定法(1)		10	自己免疫疾患に関する検査(1)	
11	酵素とアイソザイム測定法(2)		11	自己免疫疾患に関する検査(2)	
12	腫瘍マーカー		12	自己免疫疾患に関する検査(3)	
13	虚血性心疾患の生化学的マーカー		13	免疫血清学的検査(1)	
14	骨代謝マーカー		14	免疫血清学的検査(2)	
15	栄養とエネルギーアセスメント		15	感染症(非ウイルス性)の免疫検査	

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	超音波検査医学		必修/選択	必修
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	超音波医学の基本的事項について習熟する。			
講義計画	超音波検査法の原理、意義、結果の解釈と注意点、臨床応用について詳述する。			
達成目標	超音波検査法の原理、装置の構造について述べるができる。 超音波検査法の意義、結果の解釈、臨床応用について述べるができる。			
教科書・参考書	「超音波医学」日本超音波医学会編、「超音波の基礎と装置」ベクトル・コア			
準備学習(予習・復習・時間)	「超音波の基礎と装置」の物理性質、原理と方式、プローブ、安全・管理の項の概要を学習しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)	
1	物理性質	1	超音波検査の臨床応用:甲状腺(1)	
2	原理と方式(1)	2	超音波検査の臨床応用:甲状腺(2)	
3	原理と方式(2)	3	超音波検査の臨床応用:頸動脈	
4	プローブ	4	超音波検査の臨床応用:乳腺(1)	
5	装置の調整	5	超音波検査の臨床応用:乳腺(2)	
6	アーチファクト	6	超音波検査の臨床応用:消化器(1)	
7	表示系	7	超音波検査の臨床応用:消化器(2)	
8	計測の原理(1)	8	超音波検査の臨床応用:消化器(3)	
9	計測の原理(2)	9	超音波検査の臨床応用:腎・泌尿器(1)	
10	超音波 Doppler 法(1)	10	超音波検査の臨床応用:腎・泌尿器(2)	
11	超音波 Doppler 法(2)	11	超音波検査の臨床応用:産婦人科(1)	
12	記録装置	12	超音波検査の臨床応用:産婦人科(2)	
13	安全・管理	13	超音波検査の臨床応用:リンパ節	
14	新しい超音波技術(1)	14	超音波検査の臨床応用:末梢血管(1)	
15	新しい超音波技術(2)	15	超音波検査の臨床応用:末梢血管(2)	

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	超音波検査医学実習		必修/選択	必修
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	超音波検査法の基本的な技術を習得する。			
講義計画	超音波検査室において超音波検査を行い、検査法の原理や機器の構造、検査実施についての基本的な事項を理解するとともに、基本的な検査手技を習得する。			
達成目標	超音波検査実施についての基本的事項を述べることができる。 基本的な超音波検査を施行できる。			
教科書・参考書	「超音波医学」日本超音波医学会編、「超音波の基礎と装置」ベクトル・コア			
準備学習(予習・復習・時間)	「超音波の基礎と装置」のプローブ、装置の調整、アーチファクト、計測の原理、記録装置の項の概要を学習しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	甲状腺(1)	1	腎・泌尿器(1)	
2	甲状腺(2)	2	腎・泌尿器(2)	
3	頸動脈(1)	3	腎・泌尿器(3)	
4	頸動脈(2)	4	腎・泌尿器(4)	
5	乳腺(1)	5	産科・婦人科(1)	
6	乳腺(2)	6	産科・婦人科(2)	
7	乳腺(3)	7	産科・婦人科(3)	
8	乳腺(4)	8	産科・婦人科(4)	
9	消化器・腹部(1)	9	超音波 Doppler 法(1)	
10	消化器・腹部(2)	10	超音波 Doppler 法(2)	
11	消化器・腹部(3)	11	眼科領域	
12	消化器・腹部(4)	12	整形外科領域	
13	消化器・腹部(5)	13	リンパ節	
14	消化器・腹部(6)	14	末梢血管(1)	
15	新しい超音波診断技法	15	末梢血管(2)	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	臨床生理機能検査医学		必修/選択	必修	
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512		
単位数	4単位(前期 2・後期 2)	履修年次	1 年		
テーマと目的	各種生理機能検査の基本的事項について習熟する。				
講義計画	各種生理機能検査法の原理、意義、結果の解釈と注意点、臨床応用について詳述する。				
達成目標	各種生理機能検査法の原理、装置の構造について述べるができる。 各種生理機能検査法の意義、結果の解釈、臨床応用について述べるができる。				
教科書・参考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査法提要」金原出版				
準備学習(予習・復習・時間)	「標準臨床検査医学」第 11、12、13、14 章の概要を理解しておくこと 1 時間				
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	生理機能検査総論		1	呼吸機能検査(1)	
2	循環機能検査(1):血圧		2	呼吸機能検査(2)	
3	循環機能検査(2):末梢血管検査		3	消化管機能検査	
4	循環機能検査(3):心機図-1		4	脾機能検査	
5	循環機能検査(4):心機図-2		5	肝・胆道機能検査(1)	
6	循環機能検査(5):心音図-1		6	肝・胆道機能検査(2)	
7	循環機能検査(6):心音図-2		7	腎機能検査(1)	
8	循環機能検査(7):心電図-1		8	腎機能検査(2)	
9	循環機能検査(8):心電図-2		9	神経・筋機能検査(1)筋電図	
10	循環機能検査(9):心臓超音波-1		10	神経・筋機能検査(2)脳波-1	
11	循環機能検査(10):心臓超音波-2		11	神経・筋機能検査(3)脳波-2	
12	循環機能検査(11):心臓カテーテル-1		12	自律神経機能検査(1)	
13	循環機能検査(12):心臓カテーテル-2		13	自律神経機能検査(2)	
14	循環機能検査(13):電気生理学的検査		14	サーモグラフィー	
15	循環機能検査(14):核医学検査		15	感覚機能検査	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	心臓電気生理学特論		必修/選択	選択
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	心電図判読の基礎的事項である心臓電気生理学について理解する。			
講義計画	心臓の電気現象と心電図波形の成り立ちとの関連、心電図記録の基礎的事項、以上心電図の意味について詳述する。			
達成目標	心臓の電気現象と心電図波形の成り立ちとの関係を述べるができる。			
教科書・参考書	「診断のための心電図とベクトル心電図」、Harold Friedman 著、真島三郎訳、廣川書店			
準備学習(予習・復習・時間)	心電図の正常波形を理解しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	膜電位、脱分極、再分極	1	虚血性心疾患(1)	
2	心臓刺激伝導系の生理と解剖	2	虚血性心疾患(2)	
3	心電図の誘導法	3	心筋疾患／心筋症	
4	ベクトルの概念	4	心膜疾患	
5	正常心電図	5	先天性心疾患	
6	正常ベクトル心電図	6	肺疾患	
7	体表面マッピング、遅延電位	7	電解質異常	
8	異常 Q 波	8	薬剤の心電図への影響	
9	ST 部分、T 波、QT 時間	9	全身性疾患と心電図所見	
10	軸偏位	10	不整脈の生理学的考察	
11	心房の異常	11	異所性調律／期外収縮	
12	心室拡大、肥大	12	頻脈性上室不整脈	
13	心室内伝導障害	13	頻脈性心室不整脈	
14	早期興奮症候群	14	徐脈性不整脈	
15	負荷心電図	15	心電モニタリングと長時間心電図	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	臨床検査教育概論		必修/選択	選択
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	医学教育の理論と実践の基礎を学ぶ			
講義計画	教育計画の立案、方略、評価の手法についての基本を詳述する。			
達成目標	1. 教育計画を立案でき、適切な教育方略を述べることができる。 2. 評価法の種類を列挙し、教育目的に応じた評価法を選択することができる。			
教科書・参考書	「医学教育の理論と実践」、J A Dent、R M Harden 編著、篠原出版新社			
準備学習(予習・復習・時間)	上記教科書の第 1 部の概要を理解しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	カリキュラムの要素	1	教育支援(1)バーチャル学習	
2	カリキュラム開発の基礎	2	教育支援(2)シミュレーション教育	
3	アウトカム基盤型カリキュラム	3	教育支援(3)e-learning	
4	授業形態	4	カリキュラムのテーマ(1)基礎・臨床医学	
5	必修科目と選択科目	5	カリキュラムのテーマ(2)コミュニケーションスキル	
6	効果的な生涯教育	6	カリキュラムのテーマ(3)倫理と態度	
7	教育方略(1)講義	7	評価(1)評価の原則	
8	教育方略(2)実習	8	評価(2)合否判定基準	
9	教育方略(3)自主学習	9	評価(3)評価手法の選択	
10	教育方略(4)PBL と TBL	10	評価(4)筆記試験と客観試験	
11	教育方略(5)アクティブラーニング	11	評価(5)パフォーマンス評価	
12	教育方略(6)専門職種間教育	12	評価(6)診療現場における評価	
13	学習環境(1)外来教育	13	評価(7)ポートフォリオ	
14	学習環境(2)ベッドサイド教育	14	評価(8)外部評価者	
15	学習環境(3)地域における教育	15	教育に関する研究手法	

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	血行動態、循環力学特論		必修/選択	選択
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	心循環系の機能と血行動態、循環力学について理解する。			
講義計画	心機能、心室－動脈連関を主体とする心循環系の機能と血行力学、循環力学について詳述する。			
達成目標	心循環力学の基本的事項を述べることができる。 心循環系の血行動態の特徴を述べることができる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	心機能の評価法の種類を列挙しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	心筋収縮の分子機構	1	形態学的アプローチ(1)	
2	Ca 動態と筋変力機序	2	形態学的アプローチ(2)	
3	遊離心筋の収縮	3	形態学的アプローチ(3)	
4	心筋収縮の機械的特性	4	力学的アプローチ(1)	
5	心臓の収縮性	5	力学的アプローチ(2)	
6	基本的な機能曲線	6	力学的アプローチ(3)	
7	局所的機能	7	力学的アプローチ(4)	
8	ポンプとしての心臓	8	電気生理学のアプローチ(1)	
9	圧－容積関係(1)	9	電気生理学のアプローチ(2)	
10	圧－容積関係(2)	10	血流計測(1)	
11	大動脈コンプライアンス(1)	11	血流計測(2)	
12	大動脈コンプライアンス(2)	12	脈波計測(1)	
13	心室動脈連関(1)	13	脈波計測(2)	
14	心室動脈連関(2)	14	心拍出量計算法(1)	
15	Ea/Emax	15	心拍出量計算法(2)	

講義担当者承認 ⑩

【52-6】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Medical Research)
研究指導教員	山 野 嘉 久
研究・教育の概略	最新医学研究コースでは、現代社会において特にアンメットメディカルニーズの高い希少・難治性疾患に着目し、我が国の先端科学技術に立脚した研究を展開することで、革新的な新規医薬品・医療機器の開発、すなわち医療イノベーションを推進する。 本研究コースでは、これまで進展が乏しかった、希少・難治性疾患の治療薬開発という重要な社会的問題を解決するために、専門外来の実施、患者リソースバイオバンクの構築、患者登録システムによるデータベースの構築を基盤整備している。その基盤を利用して、国内外のトップレベルの研究者等と共同研究を行いながら、臨床と関連性の高い因子に関する分子レベルの解析を行い、治療標的分子の同定やバイオマーカーの開発を進めている。また、当教室では分子生物学、ウイルス免疫学、実験動物学等の専門性を活かして、同定した分子による病態形成機構の証明や、新規医療技術の開発を進める。さらに、分子レベルでの病態解明に関する研究成果を踏まえた新薬開発を推進しており、その実用化を実現するために、当大学付属病院の充実した臨床試験実施体制と連携して、医師主導治験の実施によるオーファンドラッグの開発を実践している。 このように本研究コースでは、臨床に根差した研究基盤、最先端の研究技術、国内外のトップレベルの研究者との共同研究、充実した臨床試験実施体制といった特徴を融合展開した教育・研究ネットワークを形成しており、それを最大限活用して、社会的ニーズの高い先端医療のイノベーションに発展することの出来る知識や技術を修得した、国際的人材の育成を目指す。
研究項目	1. HTLV-1 による細胞内転写制御機構の解析 2. ウイルスに対する宿主免疫応答の解析 3. 遺伝子改変動物・ヒト化マウスの解析 4. 難病の再生医療に関する研究 5. HTLV-1 に関する検査方法の開発研究 6. 治療標的分子・治療層別化因子の解析 7. サロゲートマーカーの開発研究 8. 希少難病の患者レジストリによるコホート研究 9. 医師主導治験の設計と実施、オーファンドラッグの開発について
準備学習(予習・復習)	1. 事前に臨床試験、HTLV-1、分子生物学、免疫学、実験動物学等に関する参考資料を読むこと 2. 事前に関連する疾患、法律や制度に関する参考資料を読むこと 3. 事前に参考文献を読み、プレゼンテーションの準備をすること 4. 配布資料の内容を確認すること 5. 内容をノートに記載すること 6. 授業後にはレポートを提出すること

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	難病関連社会学概論		必修/選択	必修	
担当教員	山野嘉久	担当教員連絡先	内線 4021		
単位数	4 単位(前期 2・後期 2)	履修年次	1 年		
テーマと目的	難病における社会活動を理解する				
講義計画	難病の制度、ネットワーク、療養相談、福祉サービス、患者会との関わり、患者レジストリ、データベース、QOL、ピアカウンセリング、セルフケアマネジメント				
達成目標	① 難病患者の認定制度を理解する ② 難病患者の支援活動を理解する ③ 難病患者の患者会活動、患者レジストリを理解する				
教科書・参考書	難病情報センターホームページ、神経難病在宅療養ハンドブック、難病患者の看護				
準備学習(予習・復習・時間)	難病関連制度の学習、患者レジストリ文献検索、関連する疾患の学習 1時間				
成績評価法	出席と講義内の発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	厚生労働省指定の難病		1	難病患者のレジストリについて	
2	難病対策基本法について		2	難病のデータベース構築(1)	
3	難病の申請		3	難病のデータベース構築(2)	
4	難病と医療費		4	前向きコホート研究(1)	
5	難病と介護保険		5	前向きコホート研究(2)	
6	難病と障害者総合支援法		6	難病患者への情報提供(1)	
7	難病相談支援センターについて		7	難病患者への情報提供(2)	
8	難病患者の就労支援		8	患者の QOL・満足度調査	
9	市・県・国との関わり		9	難病相談の実際	
10	難病の告知		10	ピアカウンセリングについて	
11	難病の心理的ケア		11	セルフケアマネジメントについて	
12	患者会の活動内容について		12	難病支援・診療のネットワークづくり	
13	HAM をモデルとした支援		13	患者会との交流・療養相談の実際(2)	
14	再発性多発軟骨炎をモデルとした支援		14	これからの難病対策	
15	患者会との交流・療養相談の実際(1)		15	総合討論・発表	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	ウイルス免疫学・生体防御学概論		必修/選択	必修	
担当教員	山野嘉久	担当教員連絡先	内線 4110		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	宿主の免疫系を理解し、病態・免疫異常の発現機構について学ぶ				
講義計画	正常な免疫系の発生分子機構や機能について解説し、その恒常性の破綻メカニズムを研究するために必要な解析方法や研究結果の解釈方法について概説する。				
達成目標	宿主の免疫系、疾患における免疫異常について理解する。 細胞分離、保存、細胞培養、無菌操作、フローサイトメトリー、免疫染色の基礎と解析方法を修得する。				
教科書・参考書	標準免疫学(医学書院) Clinical Immunology (Edited by Rich、Mosby)				
準備学習(予習・復習・時間)	免疫関連の参考資料、参考文献を読み、プレゼン資料を作成する 1時間 指摘された箇所を修正し、指導教官のチェックを受ける				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席ⓐ)	後期(回)	内 容	(出席ⓐ)
1	免疫システムとは		1	免疫系細胞のシグナル伝達	
2	自然免疫		2	サイトカインとレセプター	
3	獲得免疫		3	免疫記憶	
4	免疫の多様性とその分子基盤		4	アポトーシスとストレス応答	
5	免疫制御系		5	感染免疫	
6	骨髄からの免疫細胞の発生、分化		6	自己免疫反応と疾患	
7	T 細胞の機能		7	移植免疫反応	
8	B 細胞の機能		8	血液幹細胞移植の理論	
9	抗原提示のシステム		9	アレルギーの病態生理	
10	樹状細胞の特徴と機能		10	腫瘍免疫	
11	骨髄からの免疫細胞の発生、分化		11	免疫と加齢	
12	食細胞、NK 細胞		12	粘膜免疫	
13	NKT 細胞		13	生殖免疫	
14	補体の構造と機能		14	免疫制御の方法論	
15	前期のまとめと討論、発表		15	後期のまとめと討論、発表	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	遺伝子・蛋白機能解析学		必修/選択	必修	
担当教員	山野嘉久	担当教員連絡先	内線 4007		
単位数	4 単位(前期 2・後期 2)	履修年次	2 年		
テーマと目的	治療標的分子を同定するため、病態に重要な分子を同定し、その病態発現機構を解析するために、遺伝子や蛋白の解析、操作方法に関する理論と実際を学ぶ				
講義計画	分子細胞生物学的解析、ゲノム解析、プロテオーム解析の原理や操作方法を概説する				
達成目標	分子細胞生物学的解析方法の原理を理解し、操作方法を修得する ゲノム解析、プロテオーム解析の原理を理解する				
教科書・参考書	分子生物学集中講義中継(井出利憲、羊土社) Molecular cloning; a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press)				
準備学習(予習・復習・時間)	関連の参考資料、参考文献を読み、プレゼン資料を作成する 1時間 指摘された箇所を修正し、指導教官のチェックを受ける				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	分子生物学的研究手法の概要		1	遺伝子組み換え実験の理論	
2	DNA の構造と機能		2	遺伝子クローニング(1)	
3	RNA の構造と機能		3	遺伝子クローニング(2)	
4	タンパク質の構造と機能		4	制限酵素・修飾酵素の使用法	
5	遺伝子発現調節機構		5	発現ベクターの設計・作製(1)	
6	DNA 抽出の実際		6	発現ベクターの設計・作製(2)	
7	核酸の定量		7	レポーターアッセイ法	
8	PCR プライマーの設計方法		8	ChIP アッセイの原理と実際	
9	PCR		9	ウェスタンブロッティング	
10	定量的 PCR		10	免疫組織染色	
11	RNA 抽出の実際		11	ELISA	
12	cDNA の作製		12	マイクロアレイ解析の原理	
13	RT-PCR		13	ゲノム解析の原理	
14	定量的 RT-PCR		14	プロテオミクス解析の原理	
15	遺伝子配列のシーケンス		15	総合討論、発表	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	実験動物学概論		必修/選択	必修
担当教員	山野嘉久	担当教員連絡先	内線 4007	
単位数	4 単位(前期 2・後期 2)	履修年次	2 年	
テーマと目的	実験動物学の基礎、実験動物の種類について学ぶ			
講義計画	実験動物学の基礎および実験動物の種類の中でも主に研究に用いるマウス、ラットについて解説する			
達成目標	研究課題の実施に際し、動物実験の研究計画を立案することができる			
教科書・参考書	最新実験動物学(前島一淑、笠井憲雪編、朝倉書店)			
準備学習(予習・復習・時間)	関連の参考資料、参考文献を読み、プレゼン資料を作成する 1時間 指摘された箇所を修正し、指導教官のチェックを受ける			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	実験動物概論		1	モデル動物学概論
2	比較遺伝学		2	生物学的モデル動物
3	実験動物繁殖学(1)		3	実験的発症モデル動物
4	実験動物繁殖学(2)		4	自然発症モデル動物
5	実験動物飼育管理学(1)		5	発生工学実験概論
6	実験動物飼育管理学(2)		6	遺伝子操作動物作製の準備(1)
7	実験動物疾病学		7	遺伝子操作動物作製の準備(2)
8	比較実験動物学		8	トランスジェニック動物の作製
9	実験動物の種類		9	遺伝子ノックアウト動物の作製
10	各種実験動物の特性 - マウス		10	遺伝子ノックイン動物の作製
11	各種実験動物の特性 - ラット		11	受精卵および精子の凍結保存
12	動物実験の入手		12	遺伝子操作動物の利用
13	動物実験技術		13	ヒト化マウスについて
14	表現型解析法		14	ヒト免疫再構築マウス
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	ヒト T 細胞白血病ウイルスと疾患概論		必修/選択	必修
担当教員	山野嘉久	担当教員連絡先	内線 4021	
単位数	2 単位(前期1・後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	ヒトT細胞白血病ウイルス(HTLV-1)感染症とその関連疾患について学ぶ			
講義計画	HTLV-1 の発見から現在までの研究の歴史、HTLV-1 により発症する疾患の概説、HTLV-1 感染症と宿主免疫との関係、HTLV-1 による免疫異常と病態との関係、HTLV-1 による炎症や発癌との関わりについて概説する			
達成目標	HTLV-1 を含めたレトロウイルスの理解、ウイルスに対する免疫監視機構の理解、HTLV-1 による免疫異常発症機構の理解、HTLV-1 による発癌機構の理解			
教科書・参考書	HTLV-1 と疾患 (文光堂)			
準備学習(予習・復習・時間)	関連の参考資料、参考文献を読み、プレゼン資料を作成する 1時間 指摘された箇所を修正し、指導教官のチェックを受ける			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	HTLV-1 研究の歴史		1	HTLV-1 の動物モデル
2	HTLV-1 の自然史と疫学		2	ATL と HTLV-1 感染免疫
3	HTLV-1 の感染経路		3	HAM の免疫異常
4	母子感染予防対策について		4	HTLV-1 感染細胞の特徴
5	HTLV-1 のウイルス学		5	HTLV-1 感染と T 細胞分化
6	HTLV-1 の分子生物学(基礎と臨床)		6	HTLV-1 感染と制御性 T 細胞
7	HTLV-1 関連脊髄症(HAM)の臨床		7	HTLV-1 感染と樹状細胞
8	HAM の病態と治療		8	HTLV-1 感染と NKT 細胞
9	HAM の免疫遺伝学		9	HTLV-1 感染と NF-κB 活性化
10	HTLV-1 関連ぶどう膜炎、唾液腺炎		10	HTLV-1 による炎症機構
11	HTLV-1 関連関節炎、肺疾患、筋炎		11	HTLV-1 による発癌機構
12	成人 T 細胞白血病(ATL)の診断		12	HTLV-1 のエビジェネティクス
13	ATL の化学療法		13	HAM と ATL の分子標的治療
14	ATL の造血幹細胞移植		14	HAM の再生治療
15	ATL の細胞生物学		15	総合討論、発表

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	希少難病に対する新規治療法開発概論		必修/選択	必修	
担当教員	山野嘉久	担当教員連絡先	内線 4021		
単位数	2 単位(前期1・後期1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	新規治療法のシーズを実用化する過程について学ぶ				
講義計画	臨床試験(治験)の計画立案、医薬品医療機器総合機構(PMDA)との連絡・相談方法、治験実施体制について学ぶ				
達成目標	新規シーズを実用化するために必要な過程を理解する				
教科書・参考書	臨床試験の ABC(日本医師会)、臨床試験入門(医学書院)、 臨床試験・医師主導治験の Q&A(じほう)				
準備学習(予習・復習・時間)	関連の参考資料、参考文献を読み、プレゼン資料を作成する 1時間 指摘された箇所を修正し、指導教官のチェックを受ける				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	臨床試験・治験について		1	治験プロトコルの作成	
2	臨床試験に関連する規定		2	総合機構(PMDA)での治験相談	
3	GCP について		3	説明同意文書	
4	医薬品医療機器総合機構(PMDA)		4	症例報告書・手順書	
5	高度医療評価制度		5	臨床試験審査委員会	
6	未承認薬・適応外薬検討会議		6	治験の実施体制	
7	臨床試験における倫理と患者保護		7	試験責任医師・試験分担医師	
8	補償と賠償		8	CRC について	
9	アンメットメディカルニーズ		9	CRO・SMO について	
10	オーファンドラッグ制度		10	データセンターの役割	
11	医療機器(医療用ロボット等)の開発		11	効果安全性評価委員について	
12	試験デザイン		12	安全性情報の管理	
13	主要評価項目と副次評価項目		13	モニタリング	
14	被験者数の設定方法		14	治験届	
15	サロゲートマーカー		15	統計解析、総括報告書、承認申請	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	遺伝子・細胞制御学特論		必修/選択	必修
担当教員	佐藤知雄	担当教員連絡先	内線 4007	
単位数	2 単位 (前期1・後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	難治性疾患制御のための遺伝子制御法、細胞操作法の理論と実際を学ぶ			
講義計画	分子細胞生物学の体系的・網羅的理解と遺伝子操作、細胞培養の基本を詳述する			
達成目標	難治性疾患における遺伝子・細胞制御、その重要性を理解する 遺伝子・細胞制御法の理解と実践を可能にし、難治性疾患の制御へ応用を図る			
教科書・参考書	分子生物学集中講義中継 (井出利憲、羊土社) Molecular cloning; a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press)			
準備学習(予習・復習・時間)	関連の参考資料、参考文献を読み、プレゼン資料を作成する 1時間 指摘された箇所を修正し、指導教官のチェックを受ける			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	分子生物学・生化学的研究手法の概要	1	発現ベクターの構築(1)	
2	DNA の構造と機能(1)	2	発現ベクターの構築(2)	
3	DNA の構造と機能(2)	3	遺伝子クローニング(1)	
4	RNA の構造と機能(1)	4	遺伝子クローニング(2)	
5	RNA の構造と機能(2)	5	遺伝子クローニング(3)	
6	遺伝子発現(1)	6	遺伝子配列のシーケンス(1)	
7	遺伝子発現(2)	7	遺伝子配列のシーケンス(2)	
8	DNA の増幅、PCR(1)	8	動物細胞の培養法(1)	
9	DNA の増幅、PCR(2)	9	動物細胞の培養法(2)	
10	DNA の増幅、PCR(3)	10	細胞工学、モノクローナル抗体(1)	
11	核酸ハイブリダイゼーション(1)	11	細胞工学、モノクローナル抗体(2)	
12	核酸ハイブリダイゼーション(2)	12	発生工学的手法の概要と実際(1)	
13	遺伝子組み換え実験の理論と実際(1)	13	発生工学的手法の概要と実際(2)	
14	遺伝子組み換え実験の理論と実際(2)	14	機器分析手法の概要と実際	
15	遺伝子組み換え実験の理論と実際(3)	15	総合討論と発表	

講義担当者承認 ㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	関節リウマチの免疫異常概論		必修/選択	選択	
担当教員	遊道和雄	担当教員連絡先	内線 4029		
単位数	2 単位(前期1・後期1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	関節リウマチの免疫異常を理解し、滑膜細胞の培養を行う				
講義計画	関節リウマチの免疫学的講義 関節リウマチの滑膜細胞の培養と継代				
達成目標	①関節リウマチの免疫学的特異性を理解する ②関節リウマチの滑膜細胞の分離・培養し、さらに継代することにより細胞免疫学の基礎を学ぶ				
教科書・参考書	Kelly's Text book of Rheumatology (7th Edition,2006)				
準備学習(予習・復習・時間)	関連の参考資料、参考文献を読み、プレゼン資料を作成する 1時間 指摘された箇所を修正し、指導教官のチェックを受ける				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	関節リウマチの疫学		1	関節リウマチの滑膜細胞の観察	
2	自己免疫反応		2	細胞培養の基礎(1)	
3	自己抗体		3	細胞培養の基礎(2)	
4	炎症のサイトカイン		4	細胞培養の基礎(3)	
5	疾患遺伝子		5	関節リウマチの滑膜細胞の分離(1)	
6	蛋白分解酵素		6	関節リウマチの滑膜細胞の分離(2)	
7	関節の構造(関節滑膜)		7	関節リウマチの滑膜細胞の分離(3)	
8	関節の構造(骨と骨髄)		8	関節リウマチの滑膜細胞の培養(1)	
9	関節リウマチの病理像(滑膜組織)		9	関節リウマチの滑膜細胞の培養(2)	
10	関節リウマチの病理像(軟骨・骨組織)		10	関節リウマチの滑膜細胞の培養(3)	
11	関節リウマチの抗サイトカイン療法(1)		11	関節リウマチの滑膜細胞の継代(1)	
12	関節リウマチの抗サイトカイン療法(2)		12	関節リウマチの滑膜細胞の継代(2)	
13	関節リウマチ滑膜細胞のアポトーシス		13	関節リウマチの滑膜細胞の継代(3)	
14	関節リウマチ治療の将来の展望		14	関節リウマチの滑膜細胞の凍結保存(1)	
15	関節リウマチの免疫異常のまとめ		15	関節リウマチの滑膜細胞の凍結保存(2)	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	再生医療概論—細胞治療学—		必修/選択	選択
担当教員	鈴木 越	担当教員連絡先	内線 4274	
単位数	2 単位(前期1・後期1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	再生医療の歴史的背景および現状を理解し、疾患への応用方法を学ぶ。			
講義計画	細胞培養法、疾患動物作製法、細胞移植法およびそれぞれを用いた解析法を体系的に詳述する。			
達成目標	1. 再生医療で用いられる幹細胞の特徴を理解する。 2. 細胞、疾患モデル動物を使った種々の解析法を理解する。			
教科書・参考書	1. 再生医療のための分子生物学(コロナ社) 2. 再生医療へのブレイクスルー(遺伝子医学 MOOK 株式会社メディカルドウ)			
準備学習(予習・復習・時間)	関連の参考資料、参考文献を読み、プレゼン資料を作成する 1時間 指摘された箇所を修正し、指導教官のチェックを受ける			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	胚性幹細胞(1)		1	病態モデル動物(1)
2	胚性幹細胞(2)		2	病態モデル動物(2)
3	体性幹細胞(1)		3	病態モデル動物(3)
4	体性幹細胞(2)		4	薬物療法(1)
5	iPS 細胞(1)		5	薬物療法(2)
6	iPS 細胞(2)		6	薬物療法(3)
7	細胞培養(1)		7	細胞移植療法(1)
8	細胞培養(2)		8	細胞移植療法(2)
9	脂肪細胞への分化誘導		9	細胞移植療法(3)
10	軟骨細胞への分化誘導		10	再生医療のためのバイオマテリアル(1)
11	骨細胞への分化誘導		11	再生医療のためのバイオマテリアル(2)
12	神経細胞への分化誘導		12	再生医療のためのバイオマテリアル(3)
13	In vitro 分化誘導と検証(1)		13	移植細胞生着と分化の検証(1)
14	In vitro 分化誘導と検証(2)		14	移植細胞生着と分化の検証(2)
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	ウイルス免疫学・生体防御学 実習		必修/選択	選択
担当教員	山野嘉久	担当教員連絡先	内線 4021	
単位数	1 単位	履修年次	1 年	
テーマと目的	ウイルス免疫学的な解析方法について実習する			
講義計画	基本的なウイルス学的、免疫学的な実験を実際に行う			
達成目標	細胞分離、保存、細胞培養、無菌操作、フローサイトメトリー、免疫染色の基礎と解析方法を修得する。			
教科書・参考書	標準免疫学(医学書院)、Clinical Immunology (Edited by Rich、Mosby)			
準備学習(予習・復習・時間)	関連の参考資料、参考文献を読み、プロトコールを作成する 1時間 実習内容をノートに記載し、指導教官のチェックを受ける			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	実験器具の使い方		1	免疫組織染色(1)
2	無菌操作		2	免疫組織染色(2)
3	末梢血単核球細胞の分離・保存		3	DNA 抽出
4	細胞培養(1)		4	核酸定量法
5	細胞培養(2)		5	RNA 抽出
6	細胞増殖試験(1)		6	cDNA 作成
7	細胞増殖試験(2)		7	PCR
8	フローサイトメトリーの原理		8	real-time PCR
9	フローサイトメトリーの準備		9	RT-PCR
10	フローサイトメトリーの染色		10	ウイルス遺伝子の操作
11	フローサイトメトリーの測定		11	ウイルス遺伝子発現ベクターの設計
12	FACS sorting の原理		12	ウイルス遺伝子発現ベクターの作成
13	FACS sorting の準備		13	ELISA
14	FACS sorting の実際		14	ウェスタンブロッティング
15	前期のまとめ		15	総合討論と発表

講義担当者承認 ⑩